

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

アンケート結果

平成26年3月

茂原市

はじめに

男女が社会の対等な構成員として、互いにその人権を尊重し、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現は、我が国社会にとって重要な課題の一つです。

21世紀を迎え、少子高齢化・高度情報化・国際化など社会環境が大きく変動する中で、家庭や職場、地域社会など日々の暮らしの中における私たちの生き方や考え方は、非常に多様化しています。

茂原市では平成23年3月に「茂原市男女共同参画計画」を策定し、さまざまな施策を展開してまいりました。この計画は平成23年度から平成27年度までの5年間の計画期間としており、社会情勢やニーズの変化に応じて見直しを行うこととされています。

計画策定から3年が経過し、男女共同参画社会づくりに関する市民の皆さんの意識の変化をとらえ、市民生活を送る上で直面している新たな問題に対処するため、市では「茂原市男女共同参画計画」の見直しを進めています。

このたび計画の見直しにあたり、市民の皆さんの男女共同参画社会づくりに関するご意見を伺い、市が今後取り組むべき施策の基礎資料とするため、「茂原市男女共同参画社会づくりに向けての意識調査」を実施し、結果を取りまとめました。

このアンケート結果が関係機関や市民の皆さまに広くご活用いただければ幸いです。調査にご協力をいただきました市民の皆さまに心からお礼申し上げます。

平成26年3月

茂原市企画財政部企画政策課

目 次

1	調査の概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の内容	1
1.3	調査方法	1
1.4	回収結果	1
1.5	集計・分析について	1
1.6	標本比率の標準誤差	2
2	調査回答者の属性	3
2.1	性別	3
2.2	年齢	3
2.3	居住地区	3
2.4	職業	4
2.5	世帯構成	4
2.6	婚姻	4
2.7	共働きの状況	5
2.8	子どもの状況	5
3	調査結果	6
3.1	男女平等意識について	6
3.2	言葉の理解度	7
3.3	男女平等についての話し合い	9
3.4	性別役割分担意識	10
3.5	家庭における役割分担	11
3.6	理想の子どもの将来像	15
3.7	学校教育における男女平等意識	16
3.8	出生率の低い原因	17
3.9	主な介護者	18
3.10	介護における女性の役割	19
3.11	要介護状態になった場合の介護主体	20
3.12	男性の育児や介護に関わる時間	21
3.13	有給休暇や育児・介護休業等の利用しやすさ	22
3.14	望ましい女性の働き方	23
3.15	男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと	24
3.16	セクシャル・ハラスメントの現状	25
3.17	セクシャル・ハラスメントの相談窓口	26
3.18	セクシャル・ハラスメントの原因	27
3.19	ドメスティック・バイオレンスの現状	28
3.20	ドメスティック・バイオレンスへの対応	31
3.21	地域活動への参加状況	32
3.22	男性の地域活動・家庭生活への参加促進	33
3.23	女性リーダーが少ない理由	34
3.24	審議会等への女性委員の登用状況	35
3.25	男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと	36
3.26	防災・災害復興対策への女性の視点に配慮した対応について	37
3.27	防災・災害復興対策で女性の視点が必要なこと	38
3.28	男女共同参画社会の実現に向けた市への要望	39
3.29	男女共同参画社会づくりに関する意見・要望	41
4	参考資料（調査票）	51
5	用語解説	66

1 調査の概要

1.1 調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画社会づくりに関する意識・意向や生活実態などを総合的に把握し、次期男女共同参画計画の策定や各種施策の推進に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施された。

1.2 調査の内容

- ① 男女平等意識について
- ② 男女の役割分担について
- ③ 子育てと教育について
- ④ 高齢化社会について
- ⑤ 労働について
- ⑥ セクシュアル・ハラスメントについて
- ⑦ ドメスティック・バイオレンス(DV)について
- ⑧ 社会・地域参加について
- ⑨ 防災・災害復興対策について
- ⑩ 市への要望について

1.3 調査方法

- | | |
|--------|-------------------|
| ① 調査地域 | 茂原市全域 |
| ② 調査対象 | 市内に居住している20歳以上の男女 |
| ③ 対象者数 | 3,000人 |
| ④ 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| ⑤ 調査方法 | 郵送配付・郵送回収 |
| ⑥ 調査期間 | 平成25年12月2日～20日 |

1.4 回収結果

- | | |
|-------|--------|
| ① 配付数 | 3,000件 |
| ② 回収数 | 1,091件 |
| ③ 回収率 | 36.4% |

1.5 集計・分析について

- ・ 調査結果の数値は、原則として回答率(%)を表記しています。
- ・ 回答率は小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している関係で、合計が100%とならない場合があります。
- ・ 回答率(%)はその質問の回答者数を基数として算出したため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ・ 基数となるべき実数は[n]として掲載してあります。

1.6 標本比率の標準誤差

信頼度を95%とした場合の母比率Pは次式で得られる。

$$p - 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} < P < p + 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N : 母集団の大きさ (茂原市20歳以上人口) 76,590

n : 標本の大きさ (回答者数)

p : 標本比率 (%)

今回の調査結果における標本誤差は下表のようになる。

$n \backslash p$	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,091	±1.77	±2.36	±2.70	±2.89	±2.95
1,000	±1.85	±2.46	±2.82	±3.01	±3.08
700	±2.21	±2.95	±3.38	±3.61	±3.69
400	±2.93	±3.91	±4.48	±4.79	±4.89
100	±5.88	±7.83	±8.98	±9.60	±9.79

※この表の見方

例えば、ある設問の回答数 n が1,091であり、その設問中の選択肢の回答率 p (標本比率)が70%であった場合、茂原市全体の回答率 P (母比率)は95%の確率で67.30%~72.70%(±2.70以内)に含まれる。

2 調査回答者の属性

2. 1 性別

	回答数	構成比(%)
男性	463	42.4
女性	597	54.7
無回答	31	2.8
合計	1,091	100.0

2. 2 年齢

	回答数	構成比(%)
20歳代	73	6.7
30歳代	142	13.0
40歳代	153	14.0
50歳代	190	17.4
60歳代	258	23.6
70歳以上	246	22.5
無回答	29	2.7
合計	1,091	100.0

2. 3 居住地区

	回答数	構成比(%)
茂原地区(既成市街地)	235	21.5
茂原地区(その他)	107	9.8
東郷地区	162	14.8
豊田地区	79	7.2
二宮地区	41	3.8
鶴枝地区	133	12.2
五郷地区	114	10.4
本納地区	83	7.6
新治地区	18	1.6
豊岡地区	46	4.2
緑ヶ丘	43	3.9
無回答	30	2.7
合計	1,091	100.0

2. 4 職業

	回答数	構成比(%)
農林漁業	19	1.7
商工・サービス	23	2.1
医師・弁護士など	3	0.3
その他自営業	56	5.1
会社員	215	19.7
公務員・団体職員	70	6.4
専業主婦・主夫	198	18.1
学生	11	1.0
無職	276	25.3
パート・アルバイト・派遣など	164	15.0
その他	20	1.8
無回答	36	3.3
合計	1,091	100.0

2. 5 世帯構成

	回答数	構成比(%)
ひとり暮らし	86	7.9
夫婦のみ(一世代家族)	292	26.8
親と子供(核家族)	439	40.2
親と子供夫婦(二世世代家族)	79	7.2
親と子供夫婦と孫(三世世代家族)	107	9.8
その他	50	4.6
無回答	38	3.5
合計	1,091	100.0

2. 6 婚姻

	回答数	構成比(%)
既婚	794	72.8
死別・離別	112	10.3
未婚	139	12.7
無回答	46	4.2
合計	1,091	100.0

2. 7 共働きの状況

	回答数	構成比(%)
共働き	298	27.3
夫だけ	225	20.6
妻だけ	42	3.8
共に無職	237	21.7
無回答	289	26.5
合計	1,091	100.0

2. 8 お子さんはいますか

	回答数	構成比(%)
いる	775	71.0
いない	73	6.7
無回答	243	22.3
合計	1,091	100.0

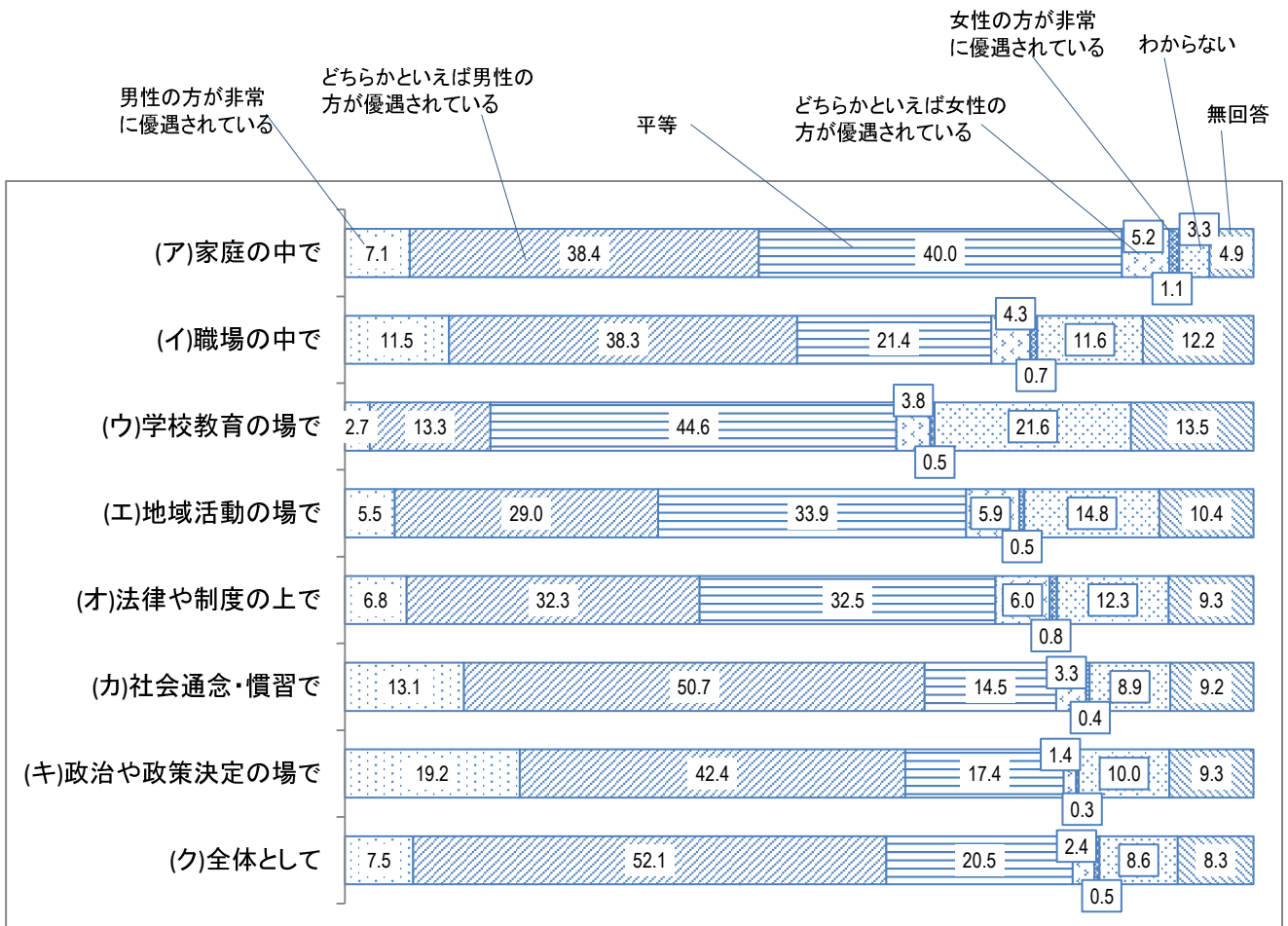
3 調査結果

3. 1 男女平等意識について

問1 現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。それともそう思いませんか。(○は各項目1つずつ)

[n=1,091]
表中の数値は回答率(%)

	優非男 遇常性 さにの れ方 が いる	優男ど 遇性ち さのら れ方か てが いる え ば	平 等	優女ど 遇性ち さのら れ方か てが いる え ば	優女ど 遇性ち さのら れ方か てが いる え ば	わ か ら な い	無 回 答
(ア)家庭の中で	7.1	38.4	40.0	5.2	1.1	3.3	4.9
(イ)職場の中で	11.5	38.3	21.4	4.3	0.7	11.6	12.2
(ウ)学校教育の場で	2.7	13.3	44.6	3.8	0.5	21.6	13.5
(エ)地域活動の場で	5.5	29.0	33.9	5.9	0.5	14.8	10.4
(オ)法律や制度の上で	6.8	32.3	32.5	6.0	0.8	12.3	9.3
(カ)社会通念・慣習で	13.1	50.7	14.5	3.3	0.4	8.9	9.2
(キ)政治や政策決定の場で	19.2	42.4	17.4	1.4	0.3	10.0	9.3
(ク)全体として	7.5	52.1	20.5	2.4	0.5	8.6	8.3



3. 2 言葉の理解度

問2 次の言葉を知っていますか。(○は各項目1つずつ)

[n=1,091]
表中の数値は回答率(%)

	よく知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
(ア) 男女雇用機会均等法	47.1	41.8	7.2	3.8
(イ) 男女共同参画社会基本法	15.3	43.7	35.9	5.0
(ウ) 女子差別撤廃条約	12.0	38.9	43.2	6.0
(エ) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	14.8	25.7	53.5	6.0
(オ) DV (ドメスティック・バイオレンス)	65.3	22.8	7.8	4.1
(カ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	10.1	34.9	49.5	5.5
(キ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	17.3	39.1	38.3	5.2
(ク) エンパワーメント (力をつけること)	8.0	23.4	62.3	6.3
(ケ) アンペイドワーク (家事・育児・介護・看護等の無償労働)	4.3	20.5	70.0	5.1
(コ) 男女ハートフル共生プラン ～茂原市男女共同参画計画～	5.9	30.2	59.5	4.4

※これらの用語の解説については66ページ以降に掲載しています。

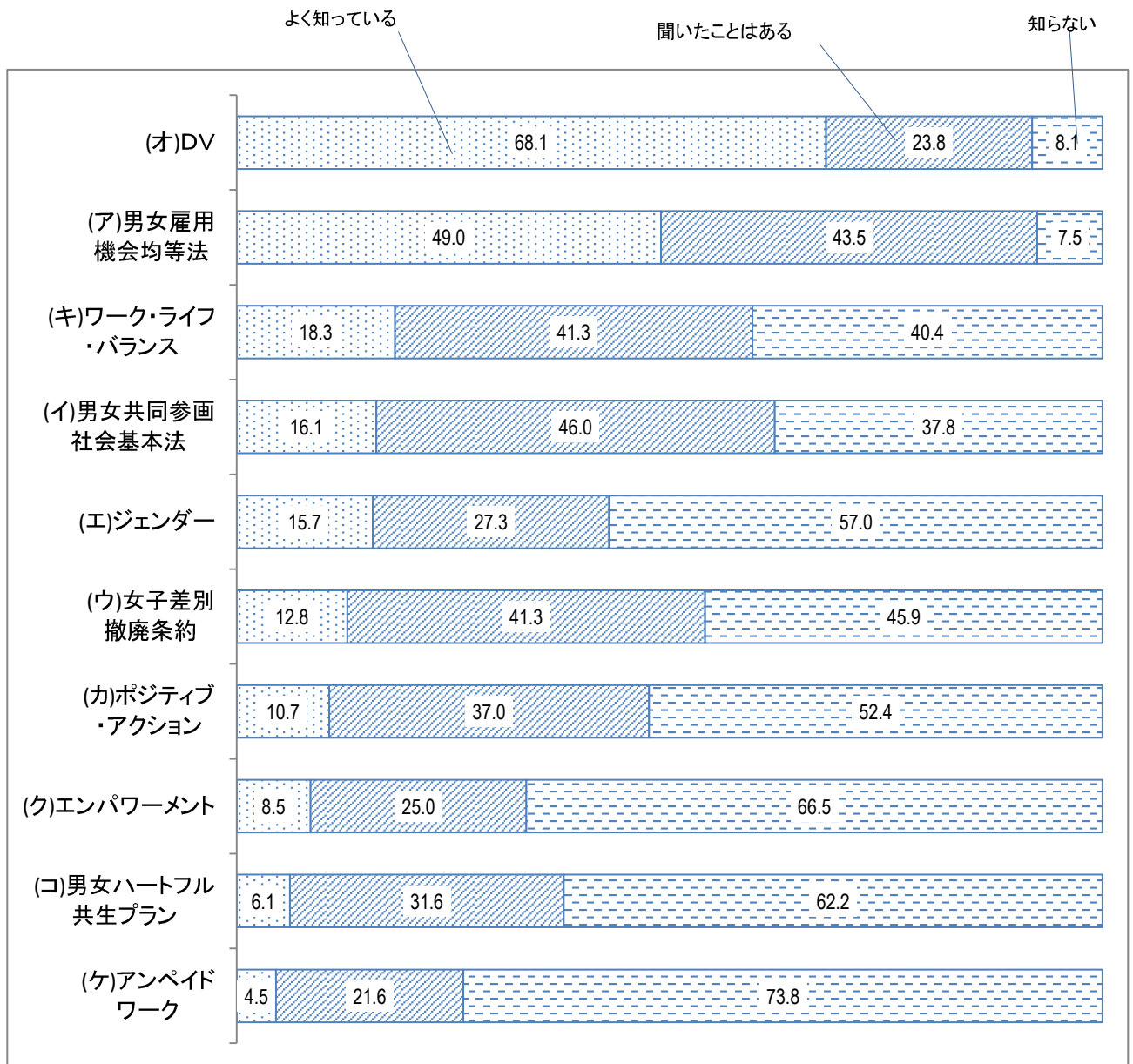
「よく知っている」上位5件

①DV	68.1
②男女雇用機会均等法	49.0
③ワークライフ・バランス	18.3
④男女共同参画社会基本法	16.1
⑤ジェンダー	15.7

「知らない」上位5件

①アンペイドワーク	73.8
②エンパワーメント	66.5
③男女ハートフル共生プラン	62.2
④ジェンダー	57.0
⑤ポジティブ・アクション	52.4

※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

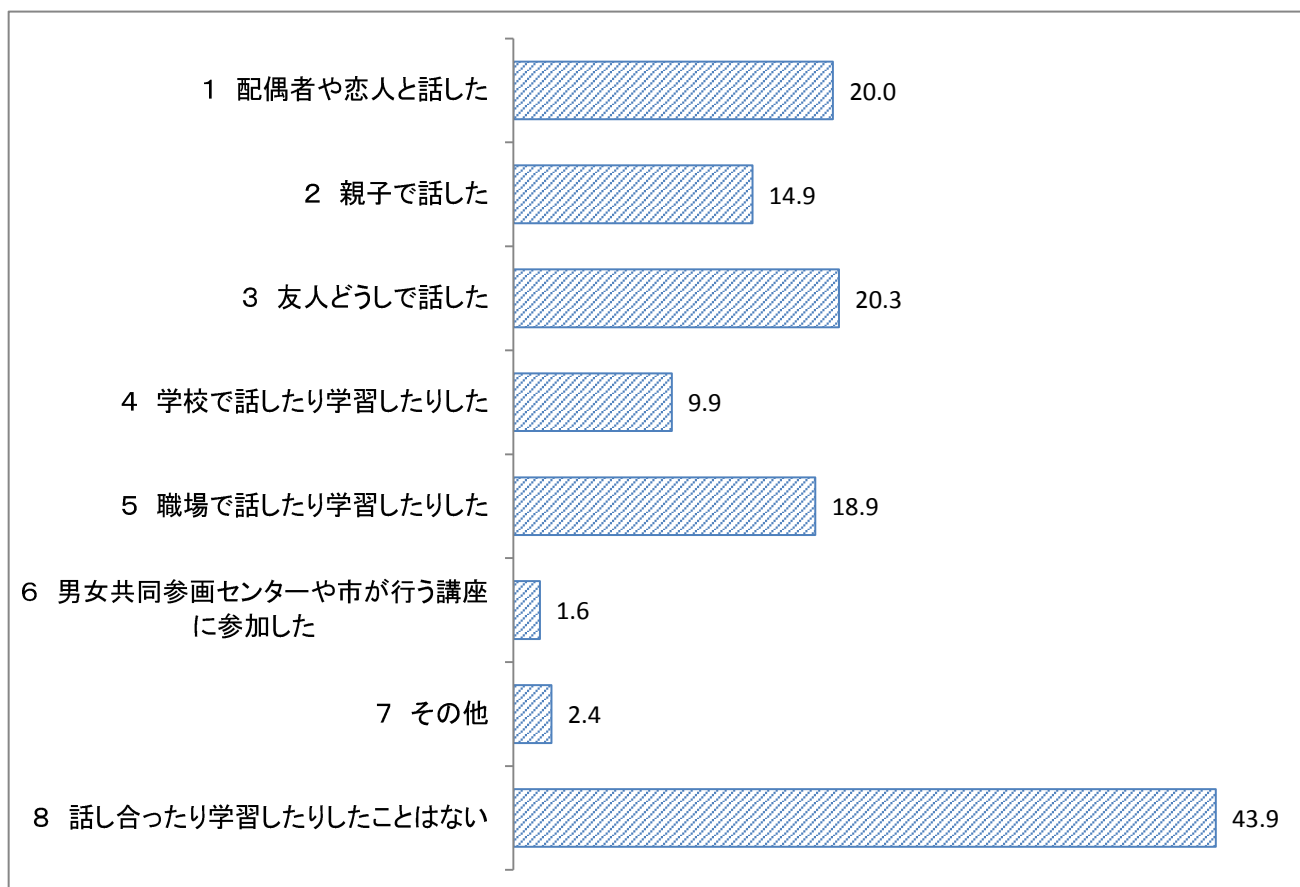


3. 3 男女平等についての話し合いなど

問3 あなたは、男性及び女性の役割や地位など、男女平等について話し合ったり、学習したりしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者や恋人と話した	20.0
2 親子で話した	14.9
3 友人どうしで話した	20.3
4 学校で話したり学習したりした	9.9
5 職場で話したり学習したりした	18.9
6 男女共同参画センターや市が行う講座に参加した	1.6
7 その他	2.4
8 話し合ったり学習したりしたことはない	43.9

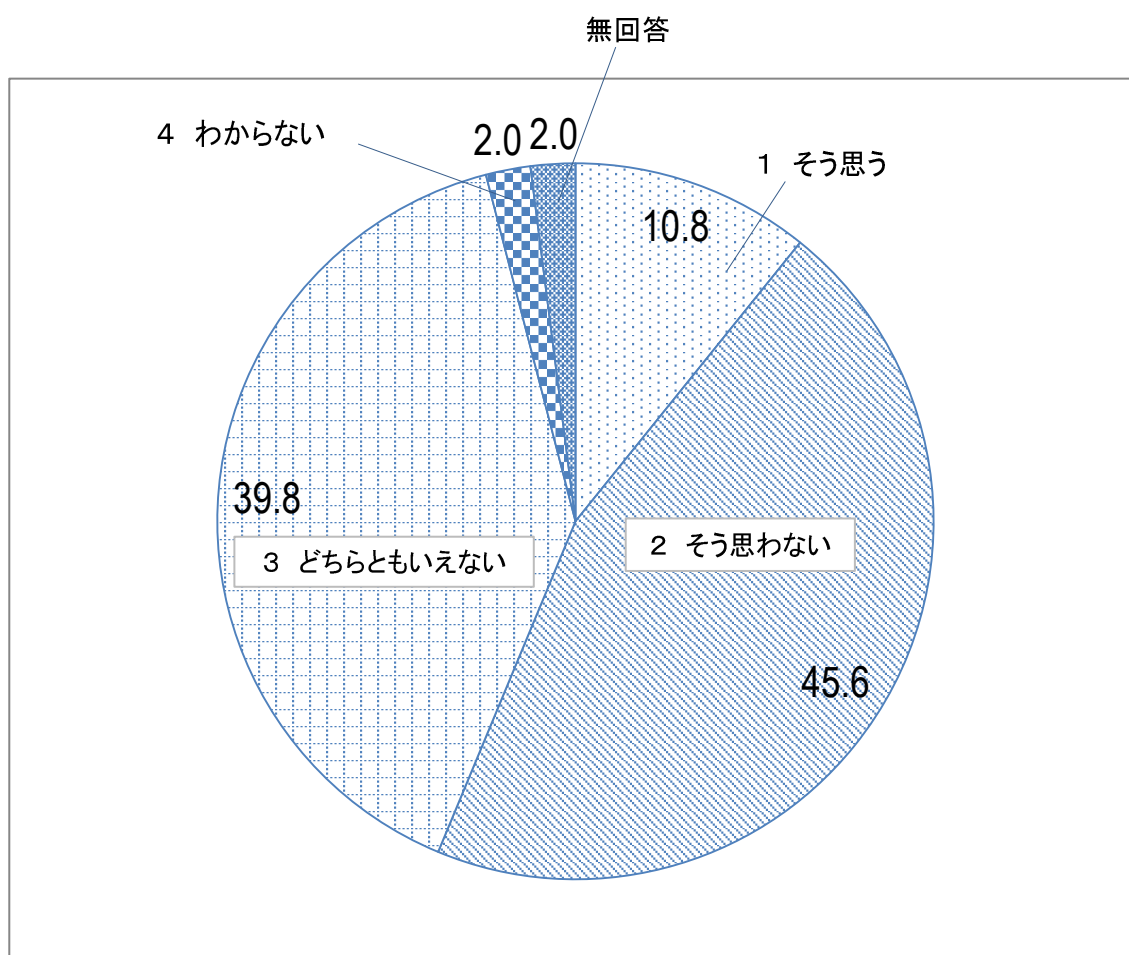


3.4 性別役割分担意識

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(○は1つだけ)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 そう思う	10.8
2 そう思わない	45.6
3 どちらともいえない	39.8
4 わからない	2.0
5 無回答	2.0



3.5 家庭における役割分担

問5 あなたの家では、次に挙げる仕事等は、主にどなたがしていますか。または、過去にしていたか。(○は各項目1つずつ)

[n=1,091]
表中の数値は回答率(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同程度	その他(男性)の人	その他(女性)の人	該当しない	無回答
(ア) 食事の支度	1.4	66.9	4.2	0.1	1.7	0.5	25.2
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	4.0	57.2	10.6	0.3	1.6	0.5	25.7
(ウ) 日常の買い物	3.1	52.1	17.2	0.3	1.3	0.3	25.8
(エ) 掃除	2.9	54.6	15.1	0.3	1.4	0.4	25.3
(オ) 洗濯	2.7	61.3	8.8	0.1	1.3	0.4	25.5
(カ) ごみ出し	22.6	34.0	13.9	1.6	2.1	0.3	25.5
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	51.4	6.6	10.9	3.7	0.1	1.1	26.2
(ク) 役所や銀行などへの用事	14.6	37.5	20.8	0.7	0.5	0.4	25.6
(ケ) 高齢者や病人の世話	1.7	26.4	12.5	0.2	1.1	28.6	29.5
(コ) 町内会や自治会の出席	35.2	17.2	10.5	1.9	0.7	7.9	26.5
(サ) 子どもの勉強やしつけ	2.1	30.6	20.3	0.1	0.6	16.7	29.5
(シ) 学校行事への参加	1.9	36.8	11.2	0.1	1.0	19.6	29.4
(ス) 家計の管理	7.8	50.3	14.0	0.2	0.6	0.6	26.4
(セ) 財産・資産の管理	24.8	26.8	19.8	0.9	0.3	1.3	26.1
(ソ) 家庭内での主導権	29.1	14.4	28.3	0.7	0.3	0.8	26.3

「主に夫」上位5件

①大工仕事や電気製品の管理	70.7
②町内会や自治会の出席	53.6
③家庭内での主導権	40.0
④財産・資産の管理	34.2
⑤ごみ出し	30.5

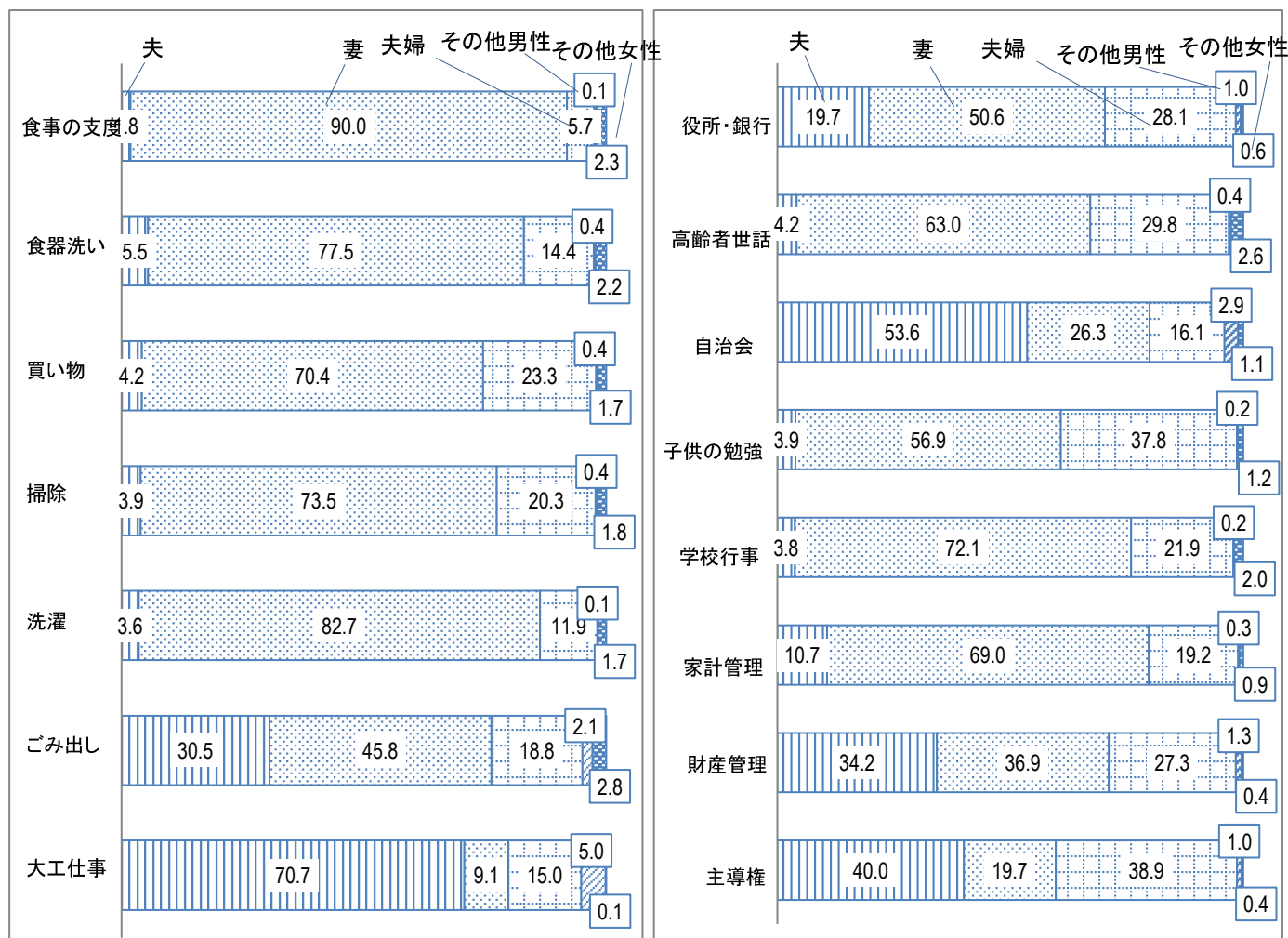
「主に妻」上位5件

①食事の支度	90.0
②洗濯	82.7
③食事の片付け	77.5
④掃除	73.5
⑤学校行事への参加	72.1

※回答率は「該当しない」「無回答」を除いて再計算したもの

※ 回答率は「該当しない」「無回答」を除いて構成比を再計算したもの。
 表中の数値は回答率（％）

	主に夫	主に妻	夫婦同程度	その他男性	その他女性
(ア) 食事の支度	1.8	90.0	5.7	0.1	2.3
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	5.5	77.5	14.4	0.4	2.2
(ウ) 日常の買い物	4.2	70.4	23.3	0.4	1.7
(エ) 掃除	3.9	73.5	20.3	0.4	1.8
(オ) 洗濯	3.6	82.7	11.9	0.1	1.7
(カ) ごみ出し	30.5	45.8	18.8	2.1	2.8
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	70.7	9.1	15.0	5.0	0.1
(ク) 役所や銀行などへの用事	19.7	50.6	28.1	1.0	0.6
(ケ) 高齢者や病人の世話	4.2	63.0	29.8	0.4	2.6
(コ) 町内会や自治会の出席	53.6	26.3	16.1	2.9	1.1
(サ) 子どもの勉強やしつけ	3.9	56.9	37.8	0.2	1.2
(シ) 学校行事への参加	3.8	72.1	21.9	0.2	2.0
(ス) 家計の管理	10.7	69.0	19.2	0.3	0.9
(セ) 財産・資産の管理	34.2	36.9	27.3	1.3	0.4
(ソ) 家庭内での主導権	40.0	19.7	38.9	1.0	0.4



※グラフ中の項目名は略記したもの

問5-1 問5の項目（ア）～（ソ）までの仕事のうち自分が「もっと分担してもよい」と思うものを3つまで選んでください。

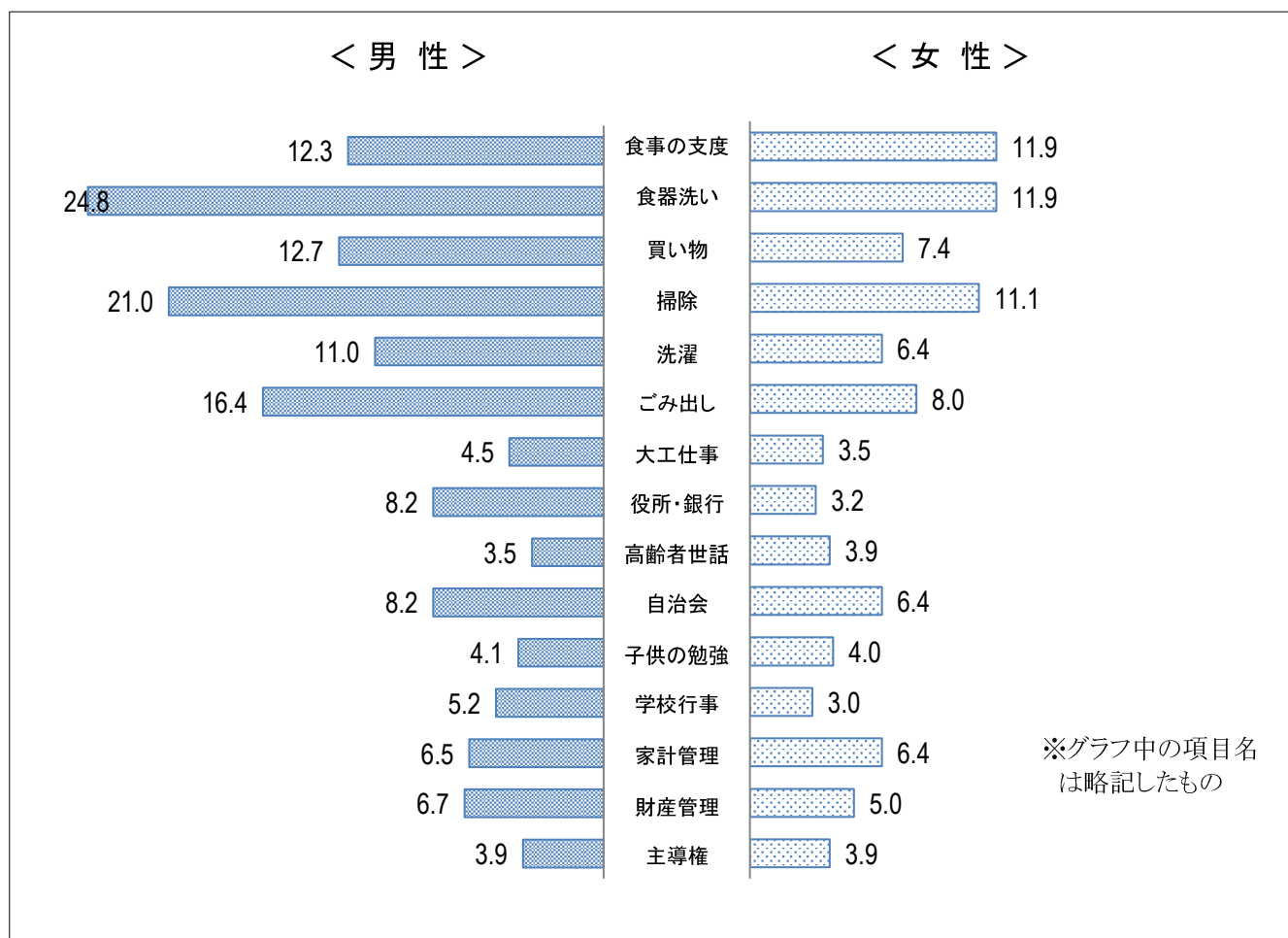
表中の数値は回答率(%)	男性 [n=463]	女性 [n=597]
(ア) 食事の支度	12.3	11.9
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	24.8	11.9
(ウ) 日常の買い物	12.7	7.4
(エ) 掃除	21.0	11.1
(オ) 洗濯	11.0	6.4
(カ) ごみ出し	16.4	8.0
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	4.5	3.5
(ク) 役所や銀行などへの用事	8.2	3.2
(ケ) 高齢者や病人の世話	3.5	3.9
(コ) 町内会や自治会の出席	8.2	6.4
(サ) 子どもの勉強やしつけ	4.1	4.0
(シ) 学校行事への参加	5.2	3.0
(ス) 家計の管理	6.5	6.4
(セ) 財産・資産の管理	6.7	5.0
(ソ) 家庭内での主導権	3.9	3.9

男性上位5件

- ①食事片付け食器洗い 24.8%
- ②掃除 21.0%
- ③ごみ出し 16.4%
- ④日常の買い物 12.7%
- ⑤食事の支度 12.3%

女性上位5件

- ①食事片付け食器洗い 11.9%
- ①食事の支度 11.9%
- ③掃除 11.1%
- ④ごみ出し 8.0%
- ⑤日常の買い物 7.4%



問5-2 問5の項目（ア）～（ソ）までの仕事のうち配偶者・パートナーに「もっと分担してほしい」と思うものを3つまで選んでください。

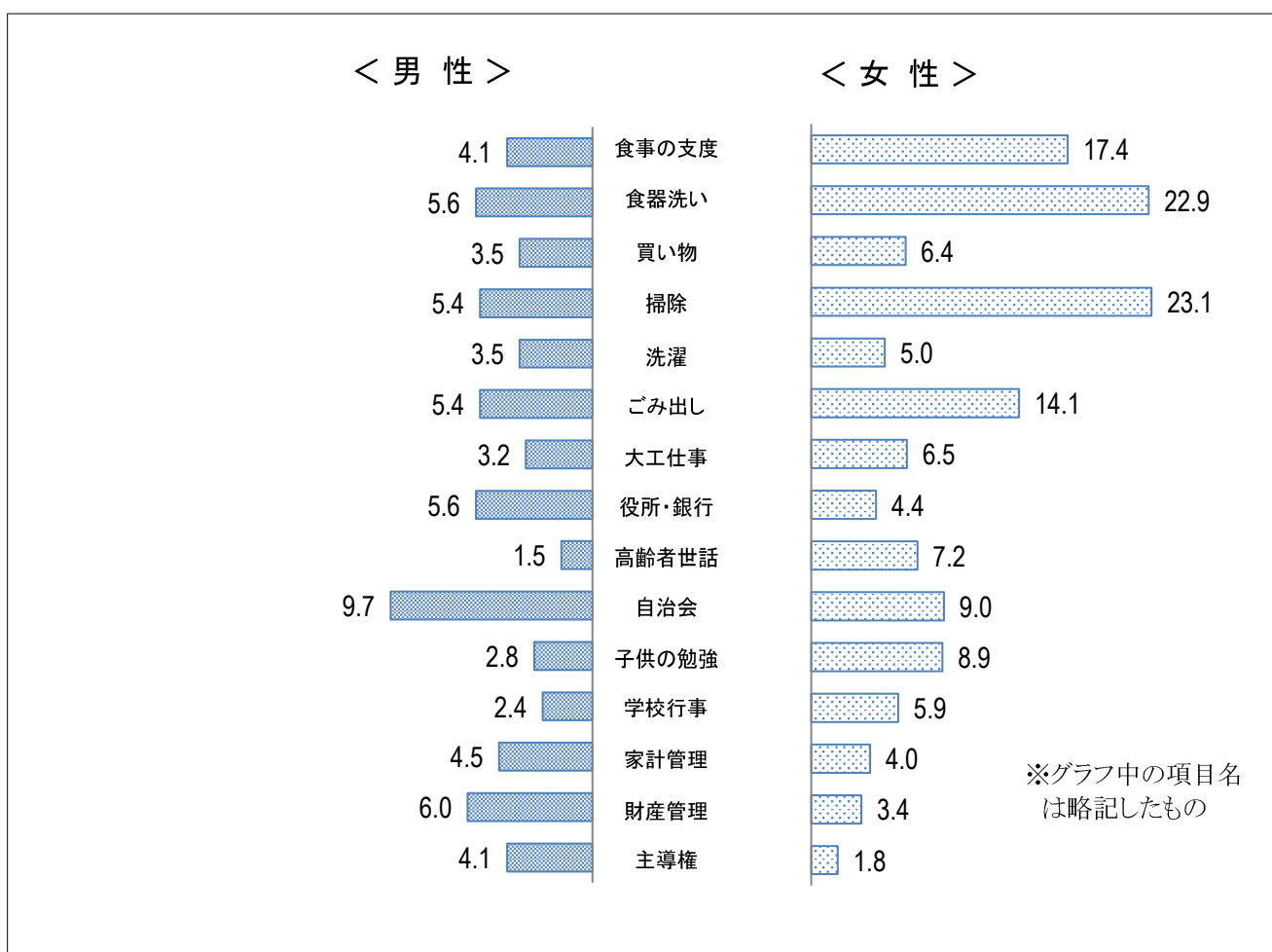
表中の数値は回答率(%)	男性 [n=463]	女性 [n=597]
(ア) 食事の支度	4.1	17.4
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	5.6	22.9
(ウ) 日常の買い物	3.5	6.4
(エ) 掃除	5.4	23.1
(オ) 洗濯	3.5	5.0
(カ) ごみ出し	5.4	14.1
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	3.2	6.5
(ク) 役所や銀行などへの用事	5.6	4.4
(ケ) 高齢者や病人の世話	1.5	7.2
(コ) 町内会や自治会の出席	9.7	9.0
(サ) 子どもの勉強やしつけ	2.8	8.9
(シ) 学校行事への参加	2.4	5.9
(ス) 家計の管理	4.5	4.0
(セ) 財産・資産の管理	6.0	3.4
(ソ) 家庭内での主導権	4.1	1.8

男性上位5件

①町内会や自治会出席	9.7%
②財産・資産の管理	6.0%
③食事片付食器洗い	5.6%
③役所や銀行への用事	5.6%
⑤掃除	5.4%
⑤ごみ出し	5.4%

女性上位5件

①掃除	23.1%
①食事片付食器洗い	22.9%
③食事の支度	17.4%
④ごみ出し	14.1%
⑤町内会や自治会出席	9.0%

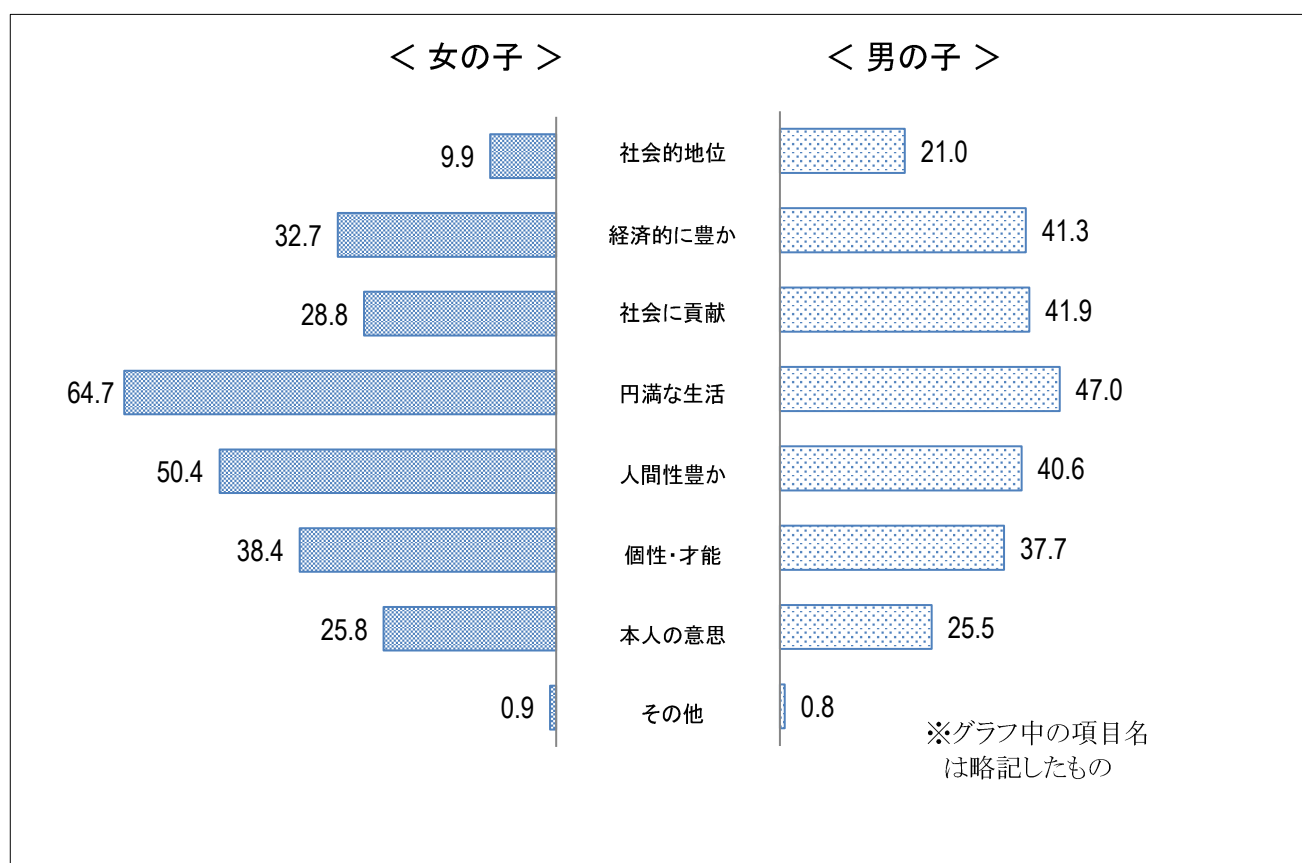


3.6 理想の子どもの将来像

問6 これからの時代を生きていく子どもたちには、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。（〇は女の子・男の子それぞれ3つまで）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	9.9	21.0
(イ) 経済的に豊かな生活をする	32.7	41.3
(ウ) 社会に貢献する	28.8	41.9
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	64.7	47.0
(オ) 人間性豊かな生活をする	50.4	40.6
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	38.4	37.7
(キ) 本人の意思に任せる	25.8	25.5
(ク) その他	0.9	0.8



「女の子」上位5件

- ①周りの人達と円満な生活 64.7%
- ②人間性豊かな生活 50.4%
- ③個性・才能を生かした生活 38.4%
- ④経済的に豊かな生活 32.7%
- ⑤社会に貢献する 28.8%

「男の子」上位5件

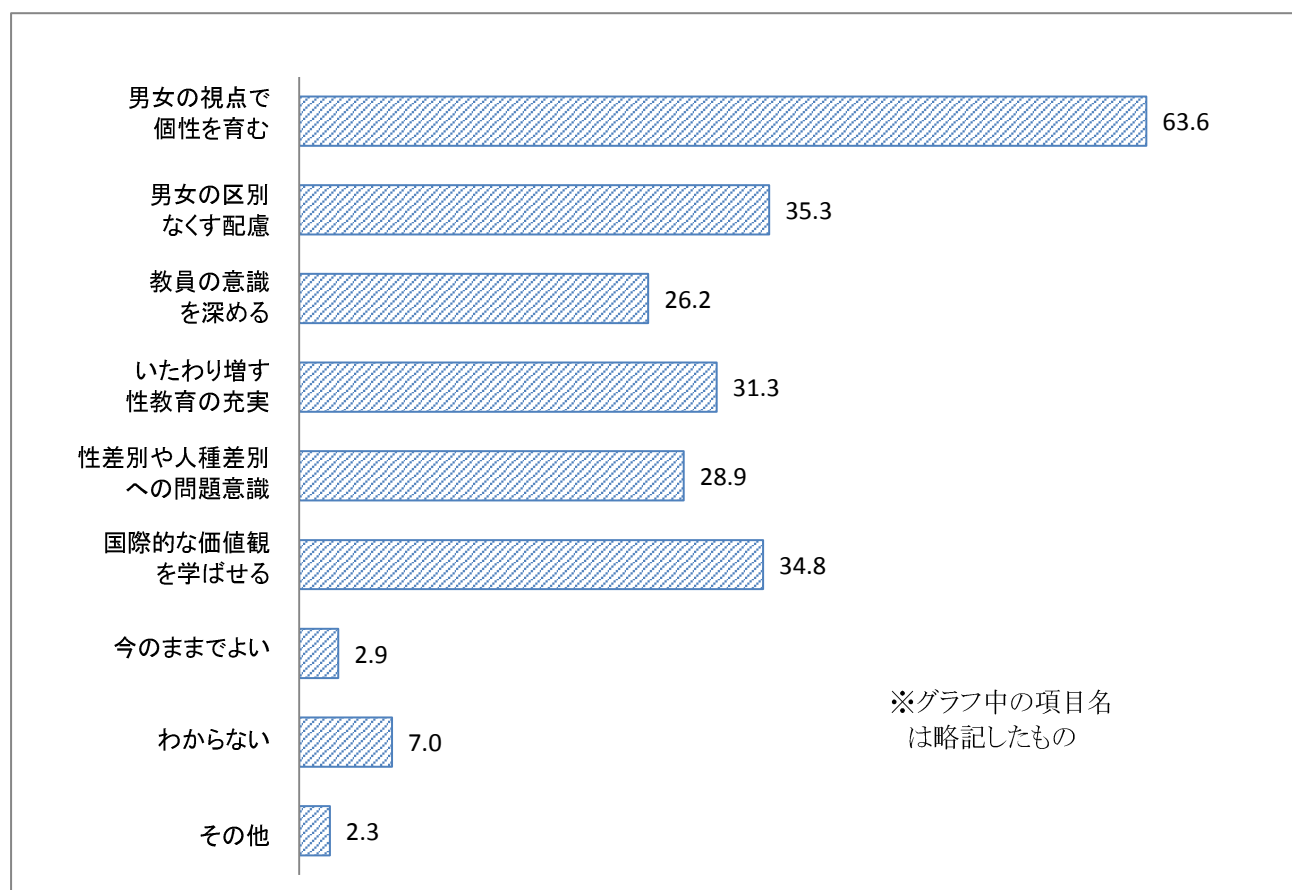
- ①周りの人達と円満な生活 47.0%
- ②社会に貢献する 41.9%
- ③経済的に豊かな生活 41.3%
- ④人間性豊かな生活 40.6%
- ⑤個性・才能を生かした生活 37.7%

3.7 学校教育における男女平等意識

問7 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、何が大切だと思いますか。（〇は3つまで）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	男女平等の視点に立って、性別にとらわれず、一人ひとりの個性を育むような授業をする	63.6
2	生活指導や進路指導において、男女の区別をなくす配慮をする	35.3
3	男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う	26.2
4	相手へのいたわりや理解が増すような性教育を充実させる	31.3
5	性差別や人種差別などに問題意識をもたせる	28.9
6	国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる	34.8
7	今のままでよい	2.9
8	わからない	7.0
9	その他	2.3

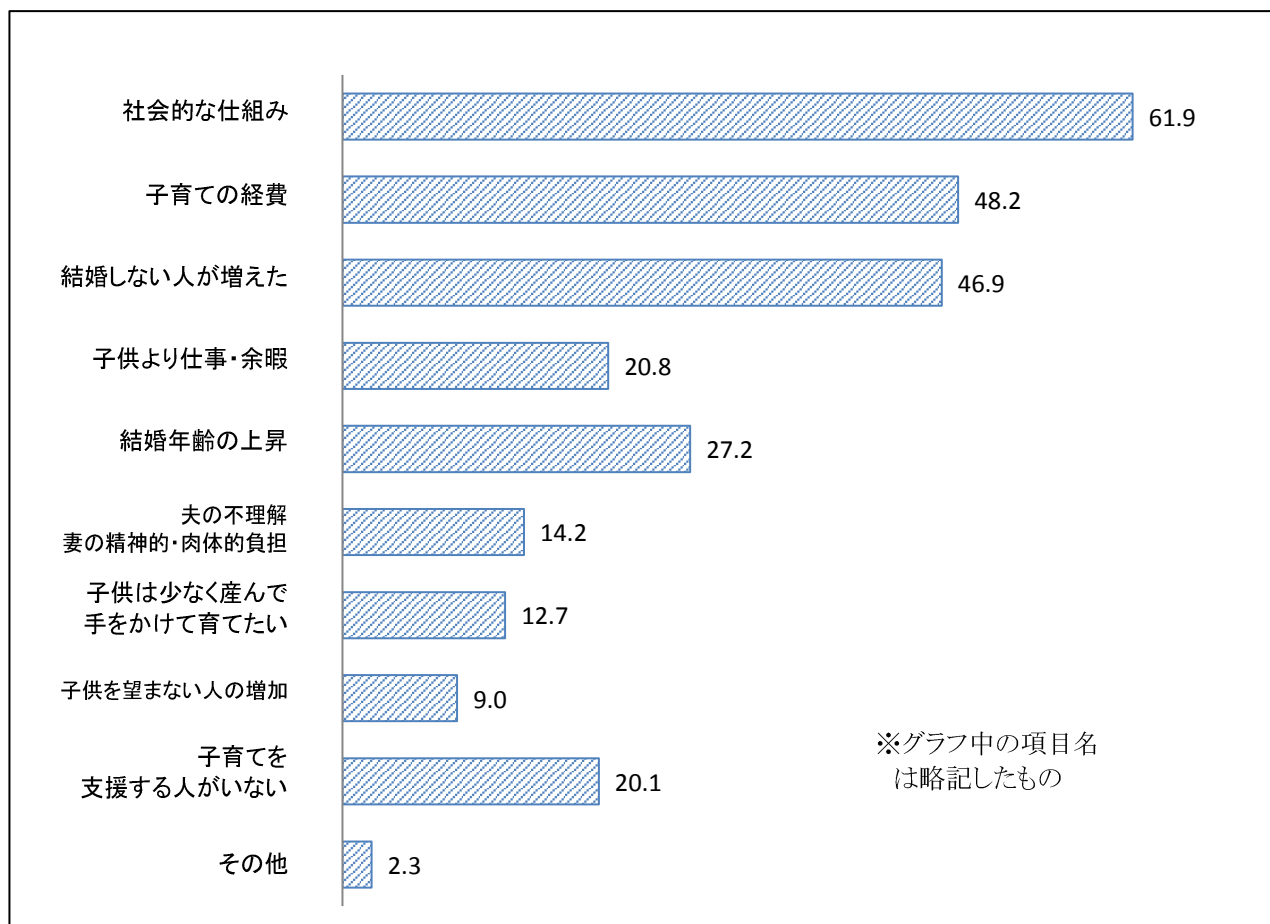


3.8 出生率の低い原因

問8 女性が一生の間に産む子どもの数は2012年で1.41人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思えますか。(〇は3つまで)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない	61.9
2	住宅事情や家計が厳しく、子育てに経費がかかりすぎる	48.2
3	結婚しない人やしたくてもできない人が増えた	46.9
4	子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた	20.8
5	女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した	27.2
6	出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きい	14.2
7	子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた	12.7
8	子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた	9.0
9	祖父母や隣近所など、保護者以外に子育てを支援してくれる人がいない	20.1
10	その他	2.3

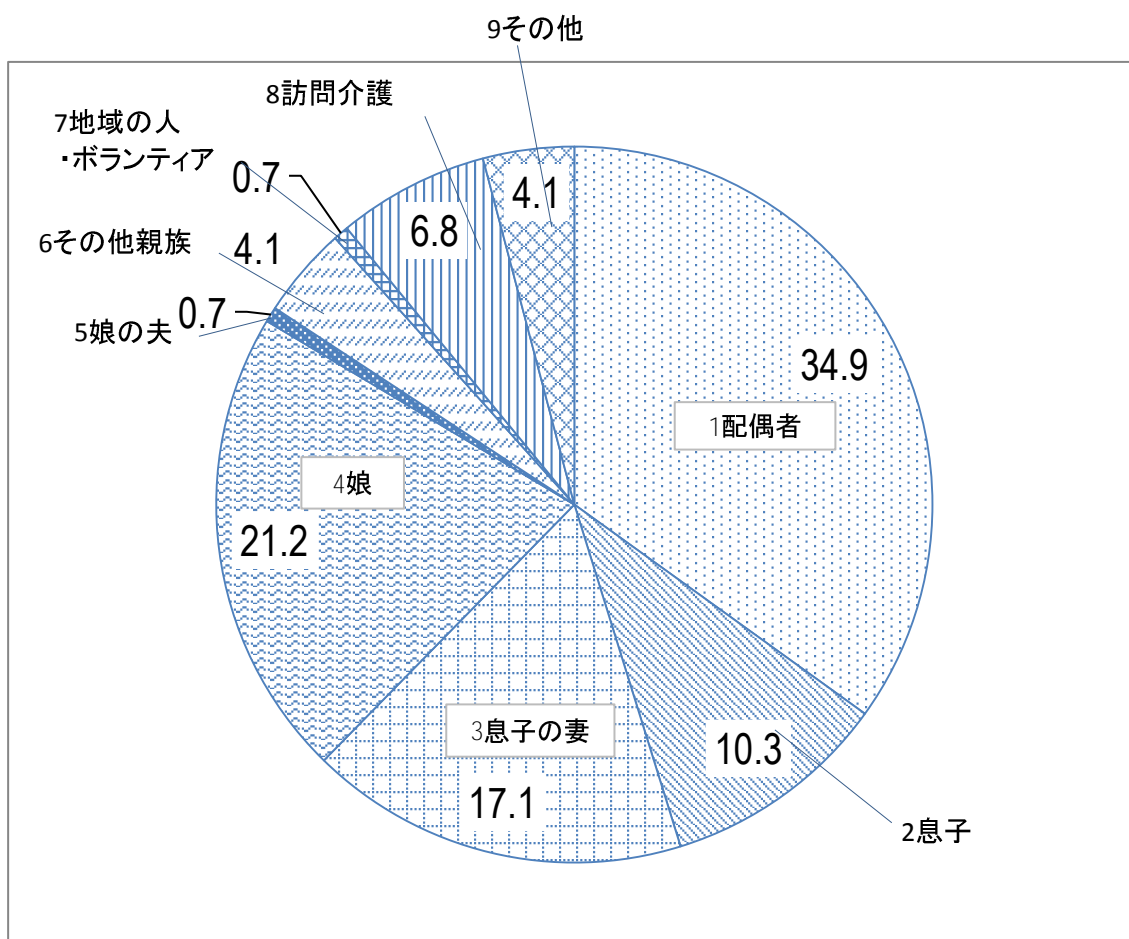


3.9 主な介護者

問9 主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか。(〇は1つだけ)

[n=146] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者	34.9
2 息子	10.3
3 息子の妻	17.1
4 娘	21.2
5 娘の夫	0.7
6 その他の親族	4.1
7 地域の人・ボランティア	0.7
8 訪問介護員	6.8
9 その他	4.1

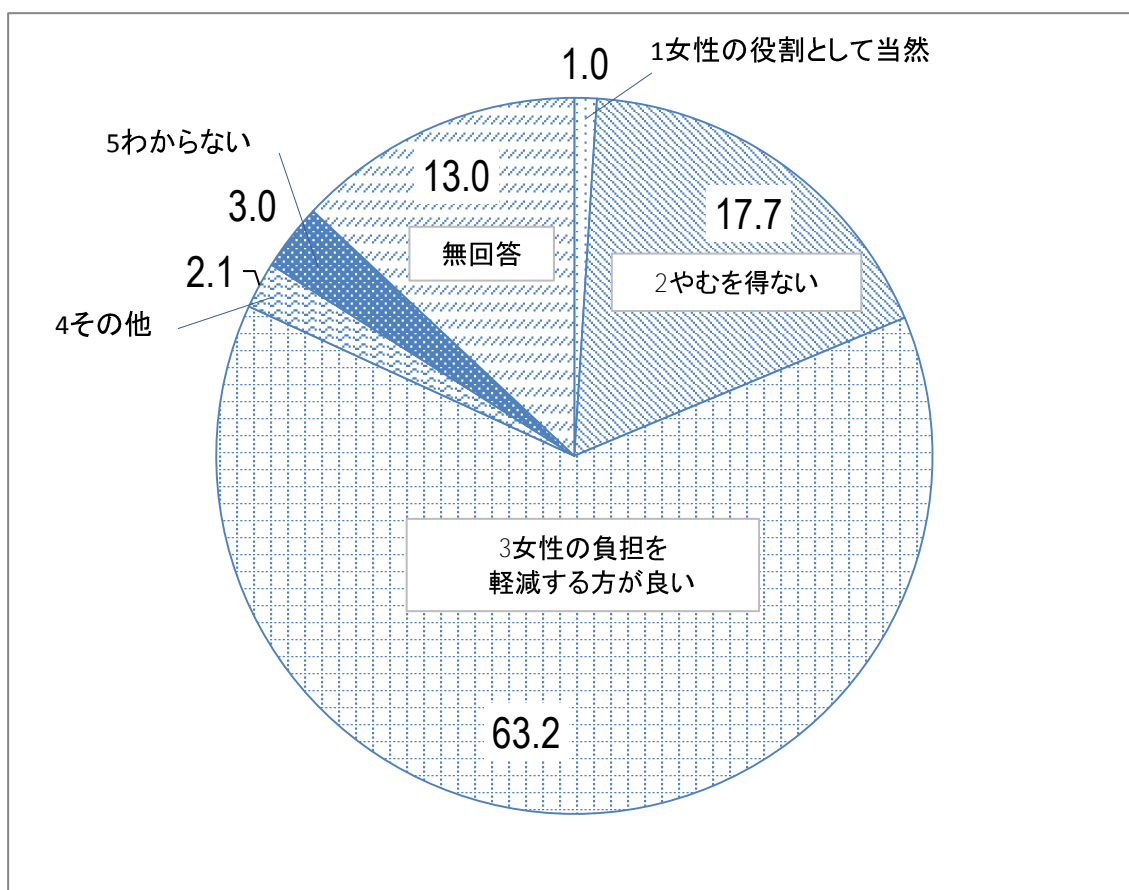


3.10 介護における女性の役割

問10 家庭で寝たきりになったお年寄りなどの介護は、女性（妻・嫁・娘など）が主たる担い手となることが多いですが、このことについてどう思いますか。
（〇は1つだけ）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 女性の役割として当然	1.0
2 問題があるがやむを得ない	17.7
3 介護保険を活用するなど女性の負担を軽減する方が良い	63.2
4 その他	2.1
5 わからない	3.0
無回答	13.0

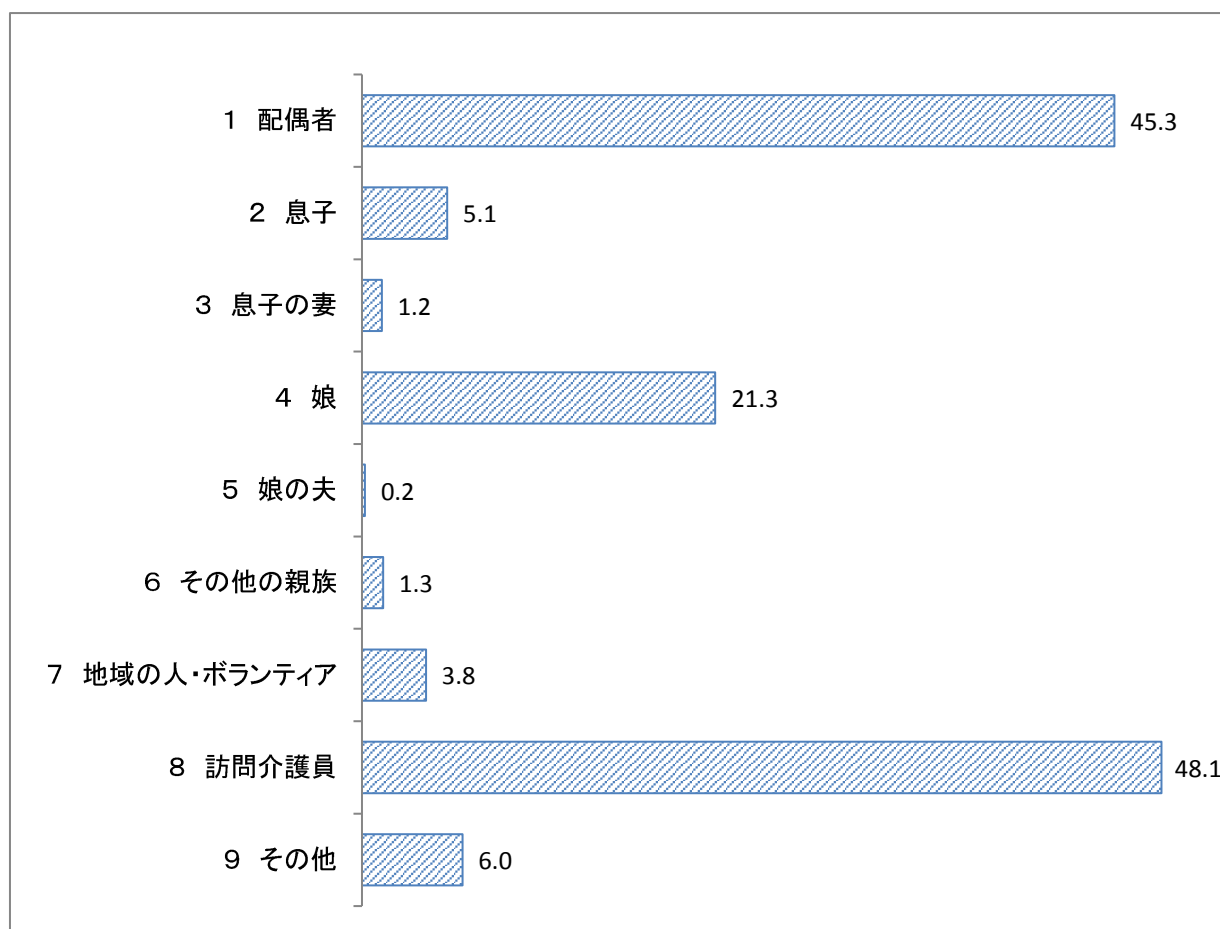


3.1.1 要介護状態になった場合の介護主体

問11 あなたは、自分が万一、介護が必要になったとき、誰に介護してほしいですか。
(○は2つまで)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者	45.3
2 息子	5.1
3 息子の妻	1.2
4 娘	21.3
5 娘の夫	0.2
6 その他の親族	1.3
7 地域の人・ボランティア	3.8
8 訪問介護員	48.1
9 その他	6.0

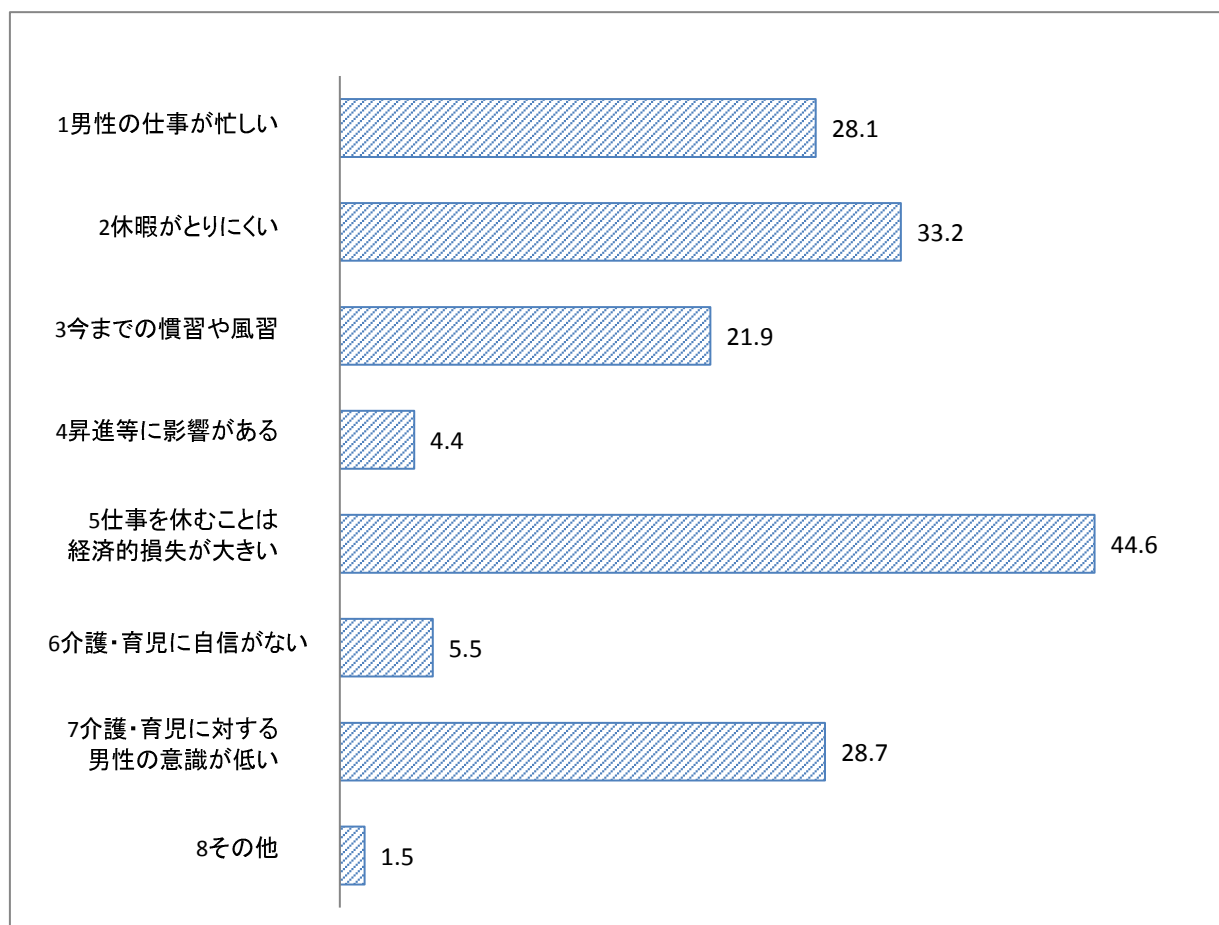


3.12 男性の育児や介護に関わる時間

問12 現在、男性が介護や育児に関わる時間が少ない状況にありますが、その理由は何だと思いますか。（〇は2つまで）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 男性の仕事が忙しい	28.1
2 休暇がとりにくい	33.2
3 今までの慣習や風習	21.9
4 昇進等に影響があると思う	4.4
5 仕事を休むことにより経済的損失が大きい	44.6
6 介護・育児に自信がない	5.5
7 介護・育児に対する男性の意識が低い	28.7
8 その他	1.5

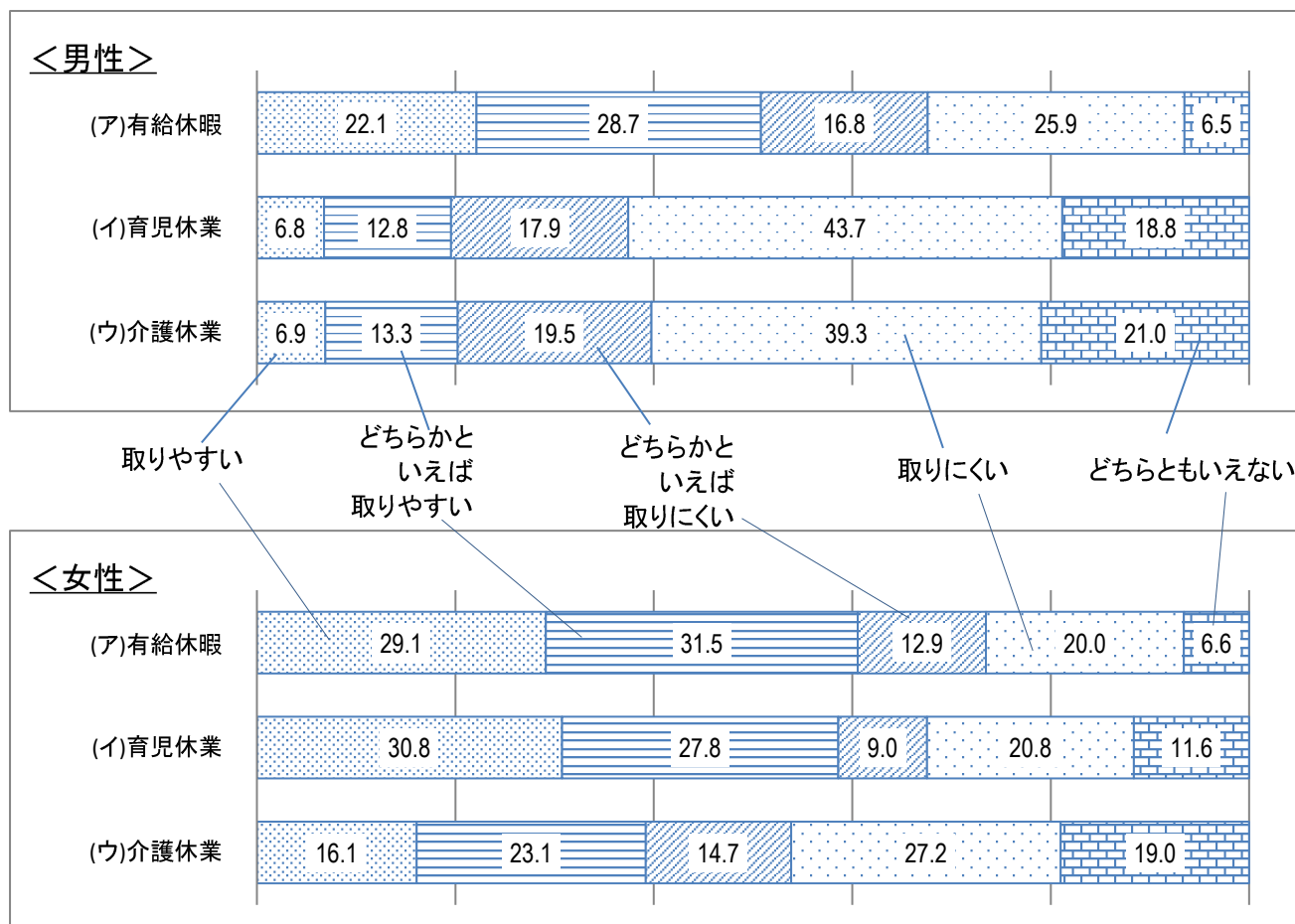


3.13 有給休暇や育児・介護休業等の利用しやすさ

問13 あなたの職場では、男性職員・女性職員それぞれについて有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。(〇は各項目1つずつ)

表中の数値は回答率(%)

		取りやすい	どちらかといえ ば取りやすい	どちらかといえ ば取りにくい	取りにくい	どちらとも いえない
男性	(ア)有給休暇 [n=429]	22.1	28.7	16.8	25.9	6.5
	(イ)育児休業 [n=414]	6.8	12.8	17.9	43.7	18.8
	(ウ)介護休業 [n=420]	6.9	13.3	19.5	39.3	21.0
女性	(ア)有給休暇 [N=426]	29.1	31.5	12.9	20.0	6.6
	(イ)育児休業 [n=413]	30.8	27.8	9.0	20.8	11.6
	(ウ)介護休業 [n=416]	16.1	23.1	14.7	27.2	19.0

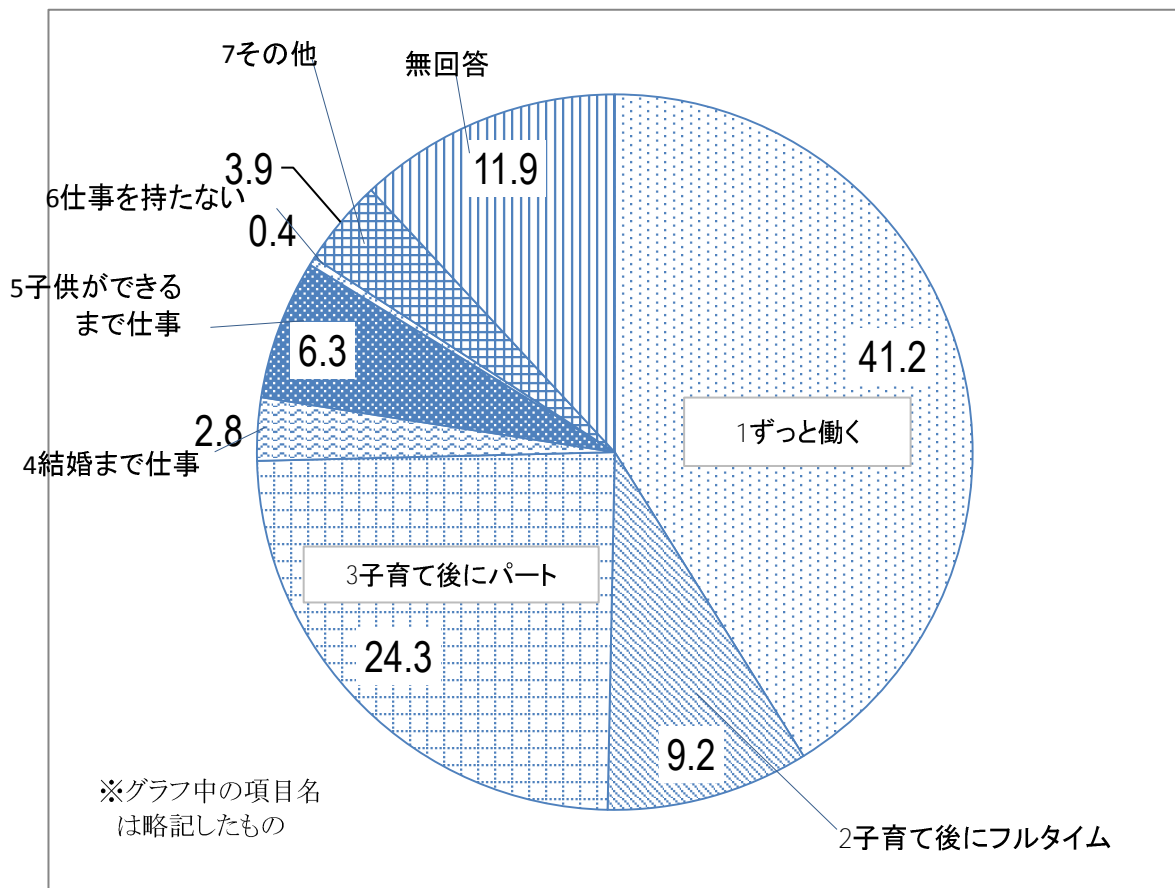


3.14 望ましい女性の働き方

問14 女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

[n=146] 表中の数値は回答率(%)

1	結婚や出産に関わらず、育児休業制度等を利用してずっと職業を持つ	41.2
2	子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける	9.2
3	子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける	24.3
4	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事に就かない	2.8
5	子どもができるまで仕事を持ち、その後は仕事に就かない	6.3
6	仕事を持たない	0.4
7	その他	3.9
	無回答	11.9

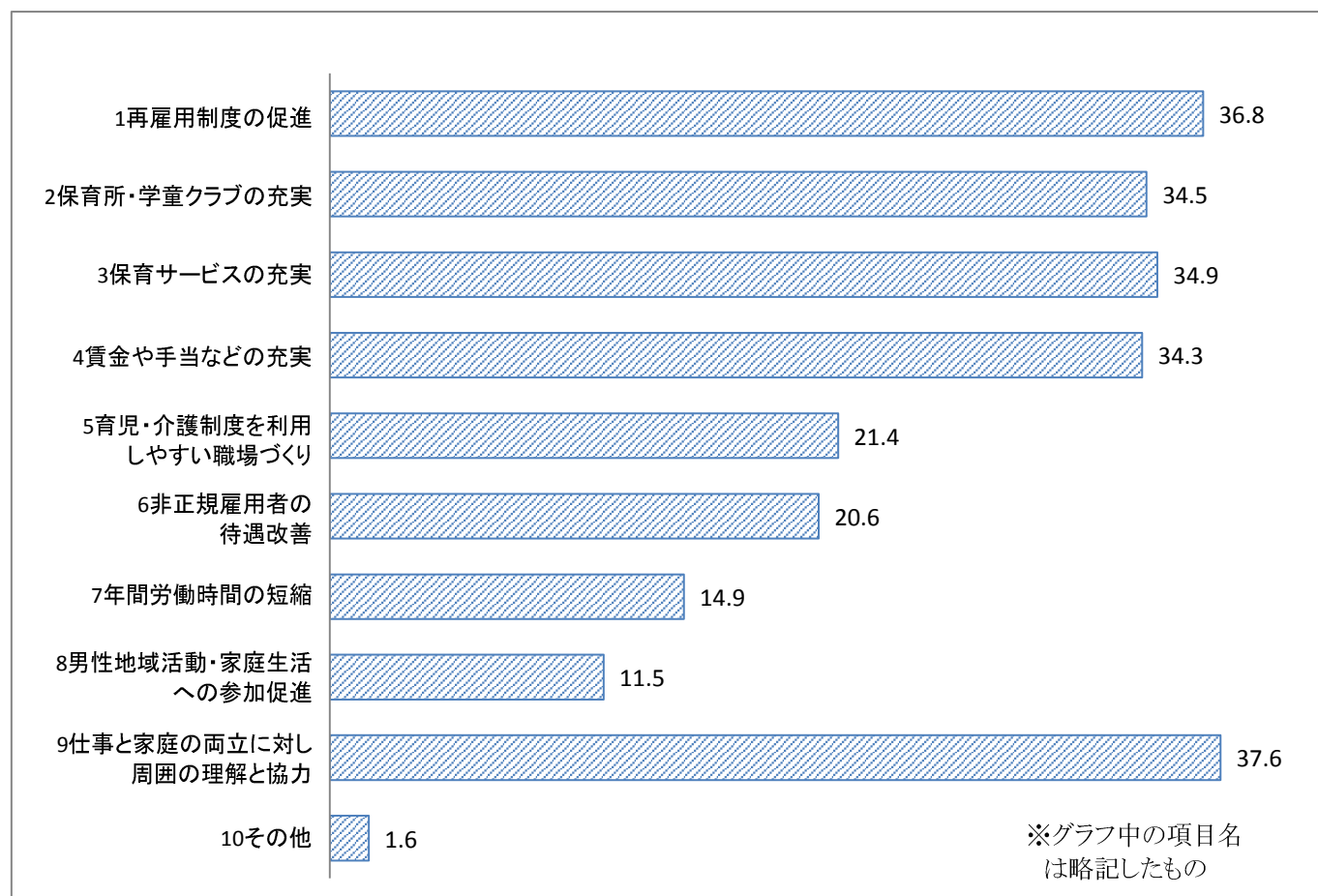


3.15 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと

問15 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	結婚・育児・介護のために退職した職員の再雇用制度の促進	36.8
2	保育所や放課後児童クラブ（学童保育）の充実	34.5
3	保育時間の延長、病児保育など保育サービスの充実	34.9
4	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実	34.3
5	代替職員の確保など育児・介護休業制度を利用しやすい職場づくり	21.4
6	パートタイマーなど非正規雇用者の待遇改善	20.6
7	残業を減らすなど年間労働時間の短縮	14.9
8	男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進	11.5
9	男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること	37.6
10	その他	1.6

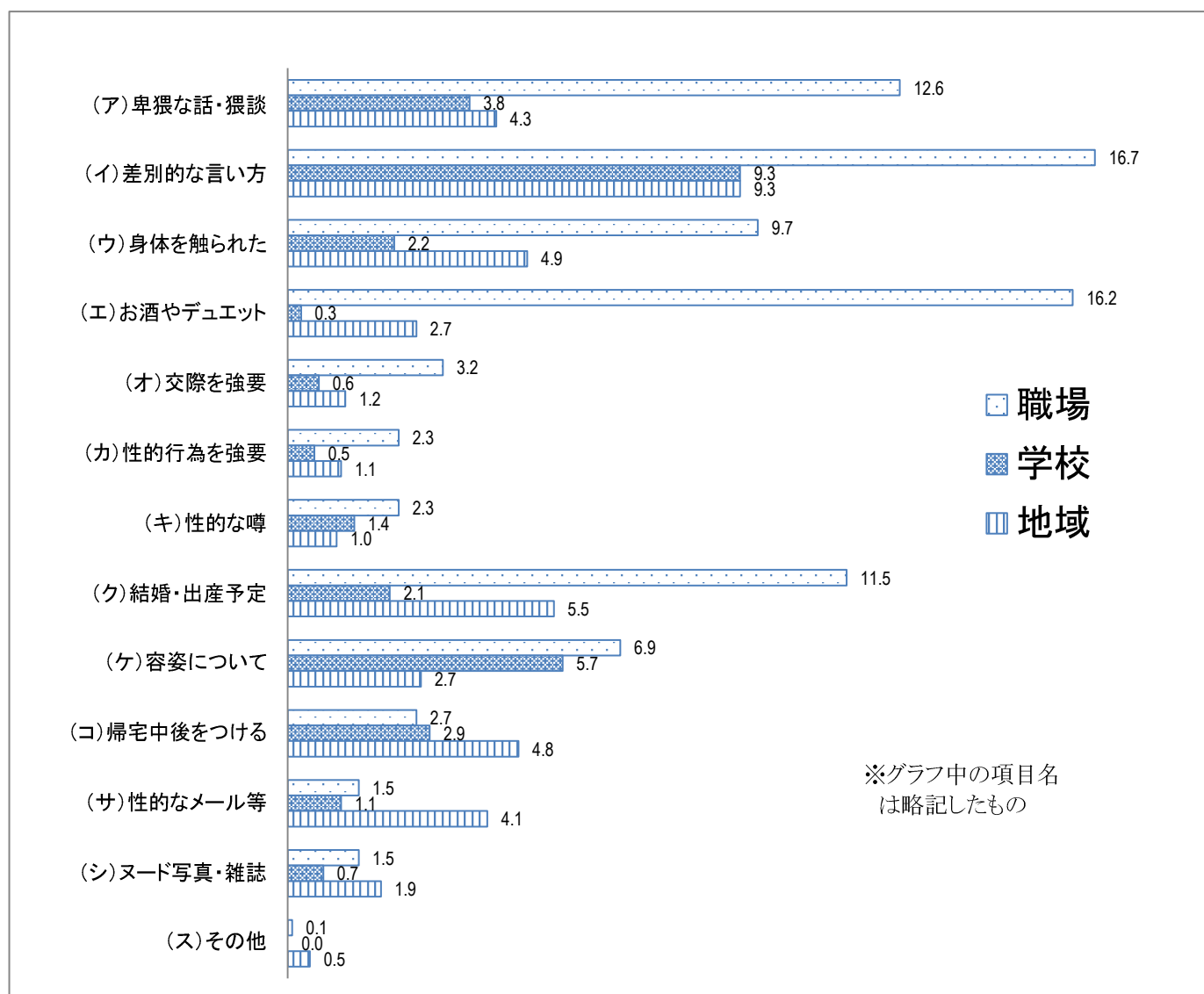


3.16 セクシャル・ハラスメントの現状

問16 これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。
 (○は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

	職場	学校	地域
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	12.6	3.8	4.3
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	16.7	9.3	9.3
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	9.7	2.2	4.9
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	16.2	0.3	2.7
(オ) 交際を強要された	3.2	0.6	1.2
(カ) 性的な行為を強要された	2.3	0.5	1.1
(キ) 性的な噂をたてられた	2.3	1.4	1.0
(ク) 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	11.5	2.1	5.5
(ケ) 容姿について繰り返し言われた	6.9	5.7	2.7
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	2.7	2.9	4.8
(サ) 性的な内容のメールや手紙、電話を受けた	1.5	1.1	4.1
(シ) ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに張られた・見せられた	1.5	0.7	1.9
(ス) その他	0.1	0.0	0.5

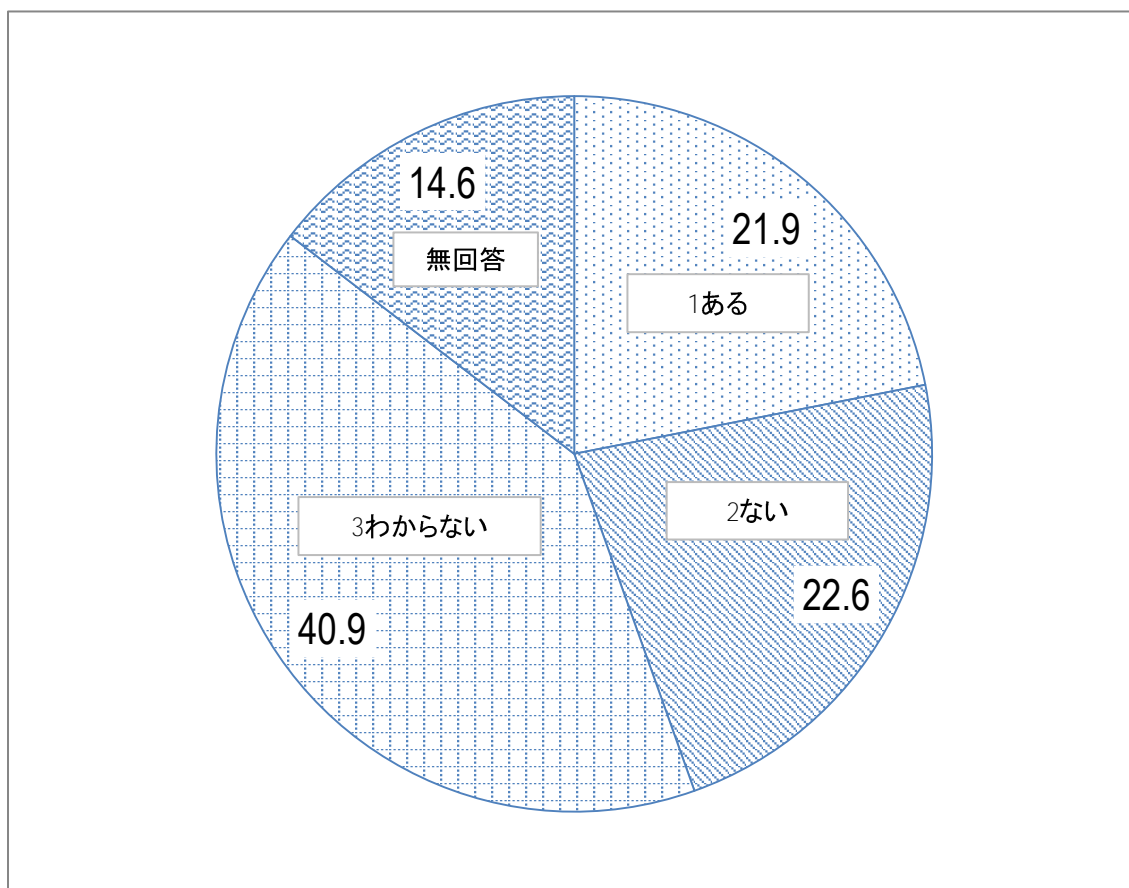


3.17 セクシャル・ハラスメントの相談窓口

問17 あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。（○は1つだけ）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 ある	21.9
2 ない	22.6
3 わからない	40.9
無回答	14.6

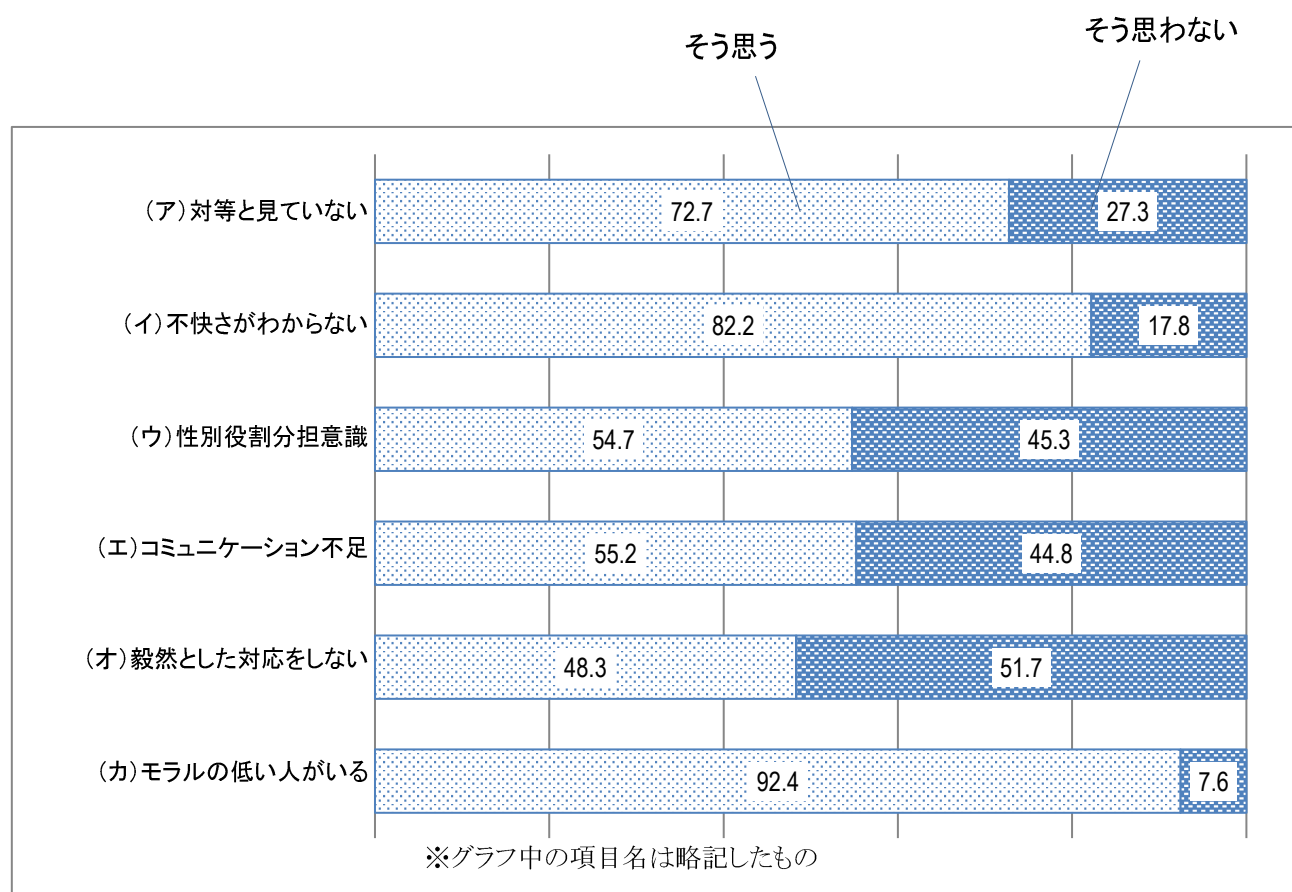


3. 18 セクシャル・ハラスメントの原因

問18 セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思えますか。
(○は各項目1つずつ)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

	そう思う	そうは 思わない	無回答
(ア) 相手を対等な人間として見ていないから	59.2	22.2	18.6
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	67.3	14.6	18.1
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	42.9	35.5	21.6
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	44.6	36.2	19.2
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	39.1	41.9	19.0
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	75.0	6.1	18.9
(キ) その他	1.1	0.0	98.9
(ク) 分からない	1.2	0.0	98.8



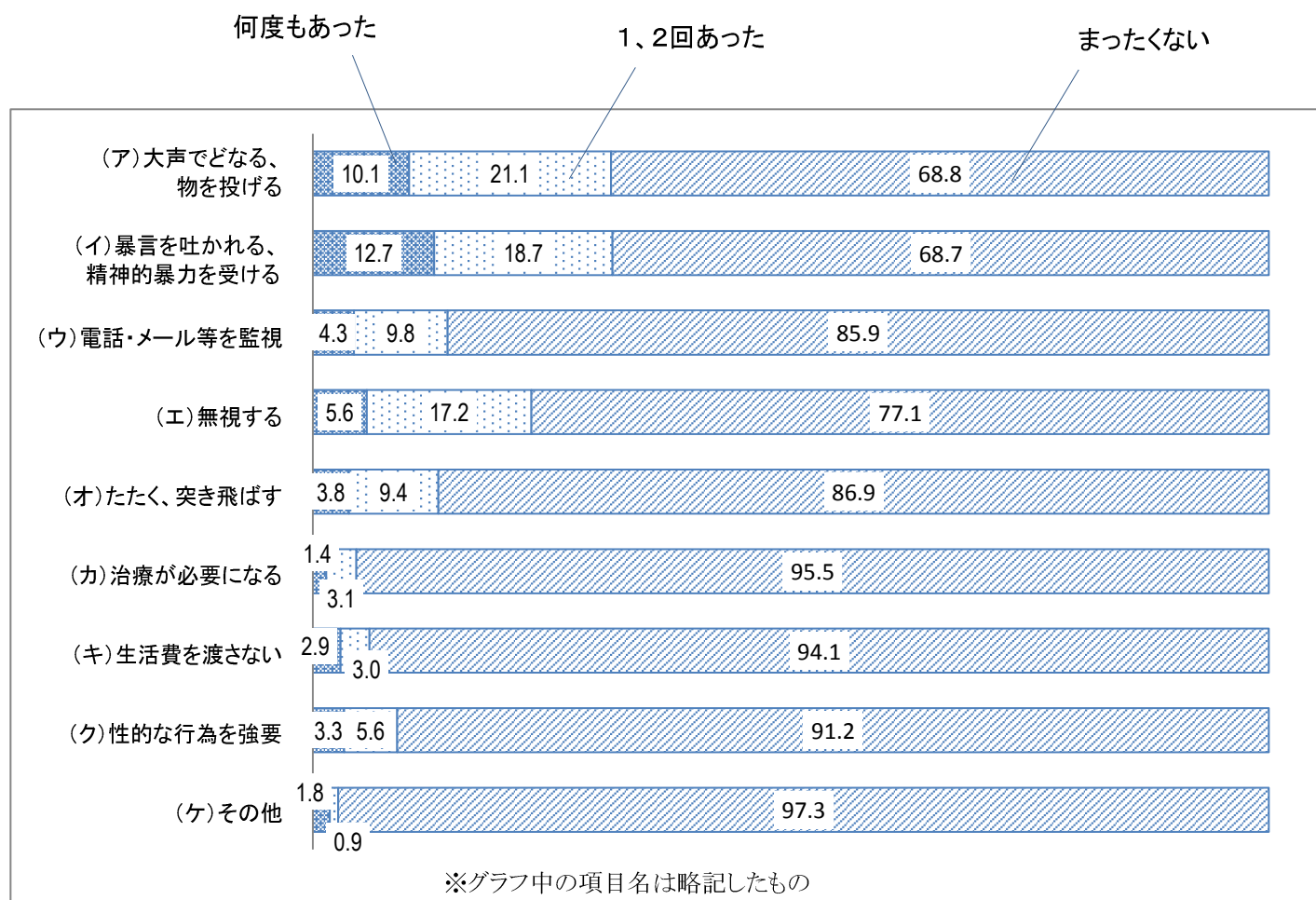
※回答率は「その他」「わからない」「無回答」を除いて再計算したもの

3. 19 ドメスティック・バイオレンスの現状

問19 今までに、夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーから次のようなことを受けたことがありますか（○は各項目1つずつ）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

	何度もあった	1,2回あった	まったくない	無回答
(ア) 大声でどなりつける、物を投げる	8.7	18.2	59.5	13.6
(イ) 暴言を吐かれるなど、精神的暴力を受ける	10.9	16.0	59.0	14.0
(ウ) 交友関係や電話・メール、外出などを細かく監視する	3.7	8.3	73.2	14.8
(エ) 何を言っても無視する	4.8	14.6	65.3	15.4
(オ) たたく、突き飛ばすなどの行為を繰り返し行う	3.2	8.0	74.0	14.8
(カ) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける	1.2	2.7	80.9	15.2
(キ) 生活費を渡さない	2.5	2.6	79.9	15.0
(ク) 性的な行為を強要する、避妊に協力しない	2.7	4.7	76.6	15.9
(ケ) その他	0.4	0.2	20.1	79.4



※回答率は「その他」「わからない」「無回答」を除いて再計算したもの

問19-1 これまでに、問19. で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（○は1つだけ）

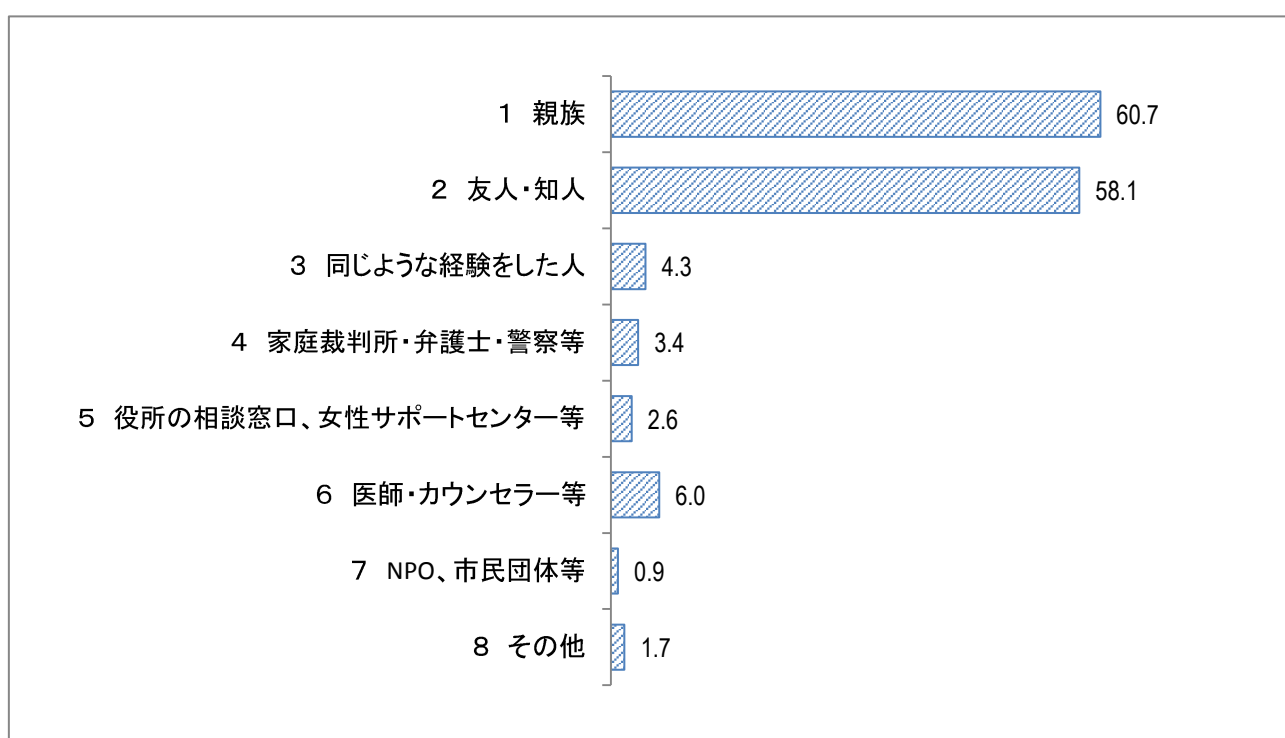
[n=408] 表中の数値は回答率(%)

1 相談した	28.7
2 相談したかったが、しなかった	12.3
3 相談しようとは思わなかった	59.1

問19-2 実際に、誰に（どこに）相談しましたか。（○は当てはまるものすべて）

[n=117] 表中の数値は回答率(%)

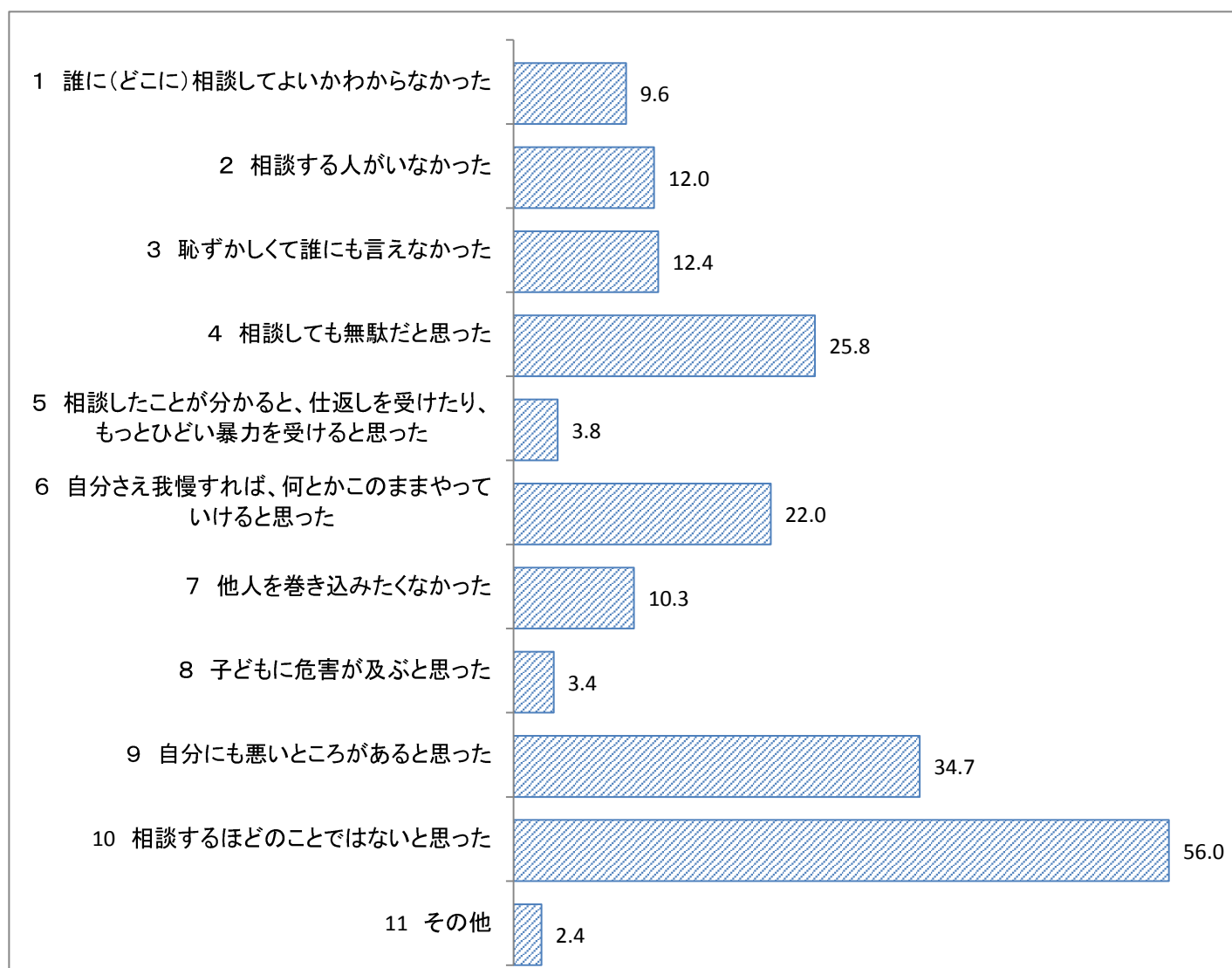
1 親族	60.7
2 友人・知人	58.1
3 同じような経験をした人	4.3
4 家庭裁判所・弁護士・警察等	3.4
5 役所の相談窓口、女性サポートセンター等	2.6
6 医師・カウンセラー等	6.0
7 NPO、市民団体等	0.9
8 その他	1.7



問19-3 誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
 （○は当てはまるものすべて）

[n=291] 表中の数値は回答率(%)

1 誰に（どこに）相談してよいかわからなかった	9.6
2 相談する人がいなかった	12.0
3 恥ずかしくて誰にも言えなかった	12.4
4 相談しても無駄だと思った	25.8
5 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	3.8
6 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	22.0
7 他人を巻き込みたくなかった	10.3
8 子どもに危害が及ぶと思った	3.4
9 自分にも悪いところがあると思った	34.7
10 相談するほどのことではないと思った	56.0
11 その他	2.4

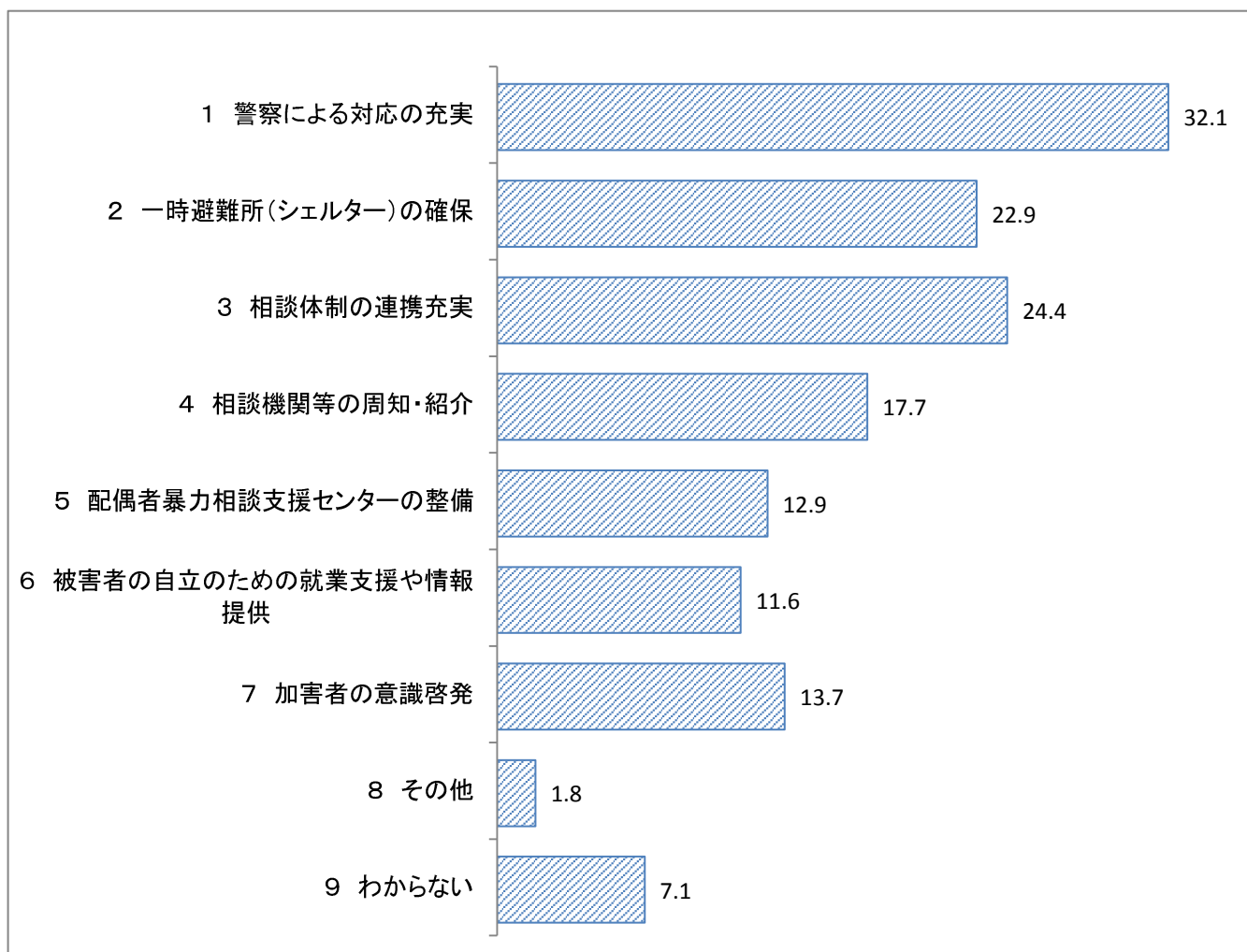


3. 20 ドメスティック・バイオレンスへの対応

問20 夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーからの暴力について、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか(○は2つまで)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

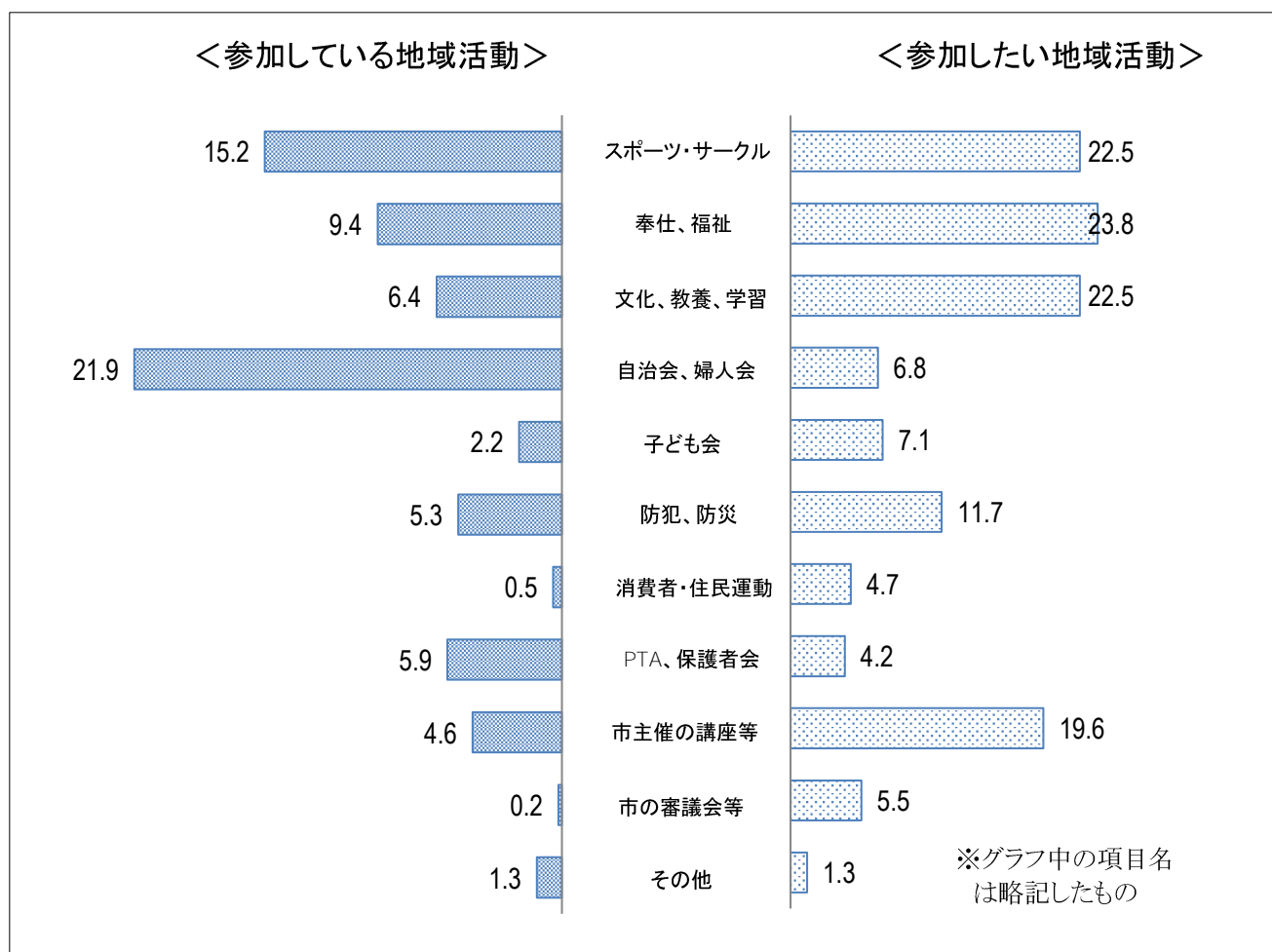
1	警察による対応の充実	32.1
2	一時避難所(シェルター)の確保	22.9
3	相談体制の連携充実	24.4
4	相談機関等の周知・紹介	17.7
5	配偶者暴力相談支援センターの整備	12.9
6	被害者の自立のための就業支援や情報提供	11.6
7	加害者の意識啓発	13.7
8	その他	1.8
9	わからない	7.1



3. 2 1 地域活動への参加状況

問21 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。（〇は当てはまるものすべて）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)		現在参加している	今後参加したい
1	スポーツ・サークル活動	15.2	22.5
2	ボランティア活動、福祉活動	9.4	23.8
3	文化、教養、学習活動	6.4	22.5
4	自治会、婦人会、長寿クラブ	21.9	6.8
5	子ども会活動	2.2	7.1
6	防犯・防災活動	5.3	11.7
7	消費者運動・住民運動	0.5	4.7
8	PTAの役員、学校等の保護者会	5.9	4.2
9	市が行う講座・講演会等への参加	4.6	19.6
10	市の審議会等の委員	0.2	5.5
11	その他	1.3	1.3

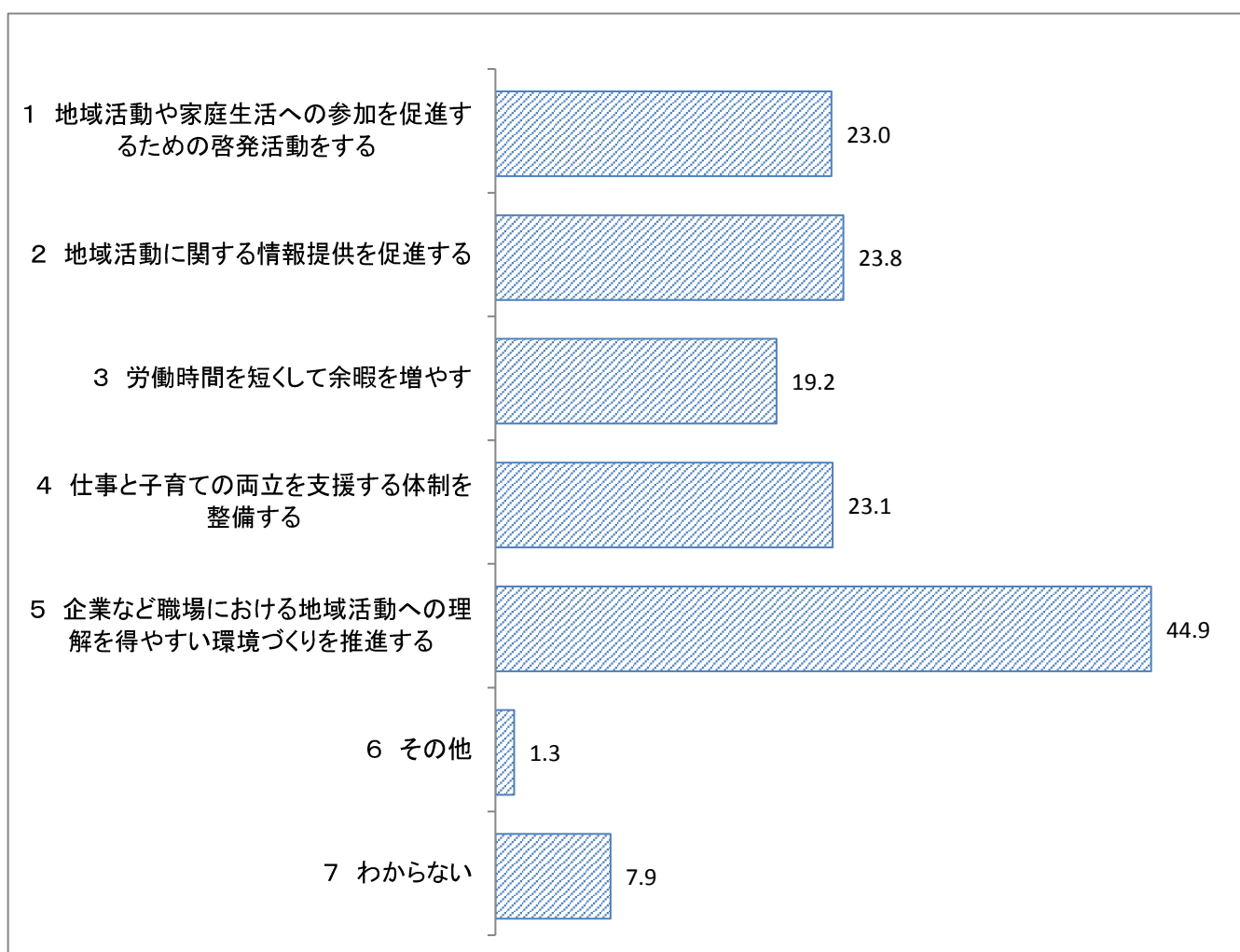


3. 2 2 男性の地域活動・家庭生活への参加促進

問22 これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われています。地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が重要だと思いますか。(〇は2つまで)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	地域活動や家庭生活への参加を促進するための啓発活動をする	23.0
2	地域活動に関する情報提供を促進する	23.8
3	労働時間を短くして余暇を増やす	19.2
4	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	23.1
5	企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する	44.9
6	その他	1.3
7	わからない	7.9

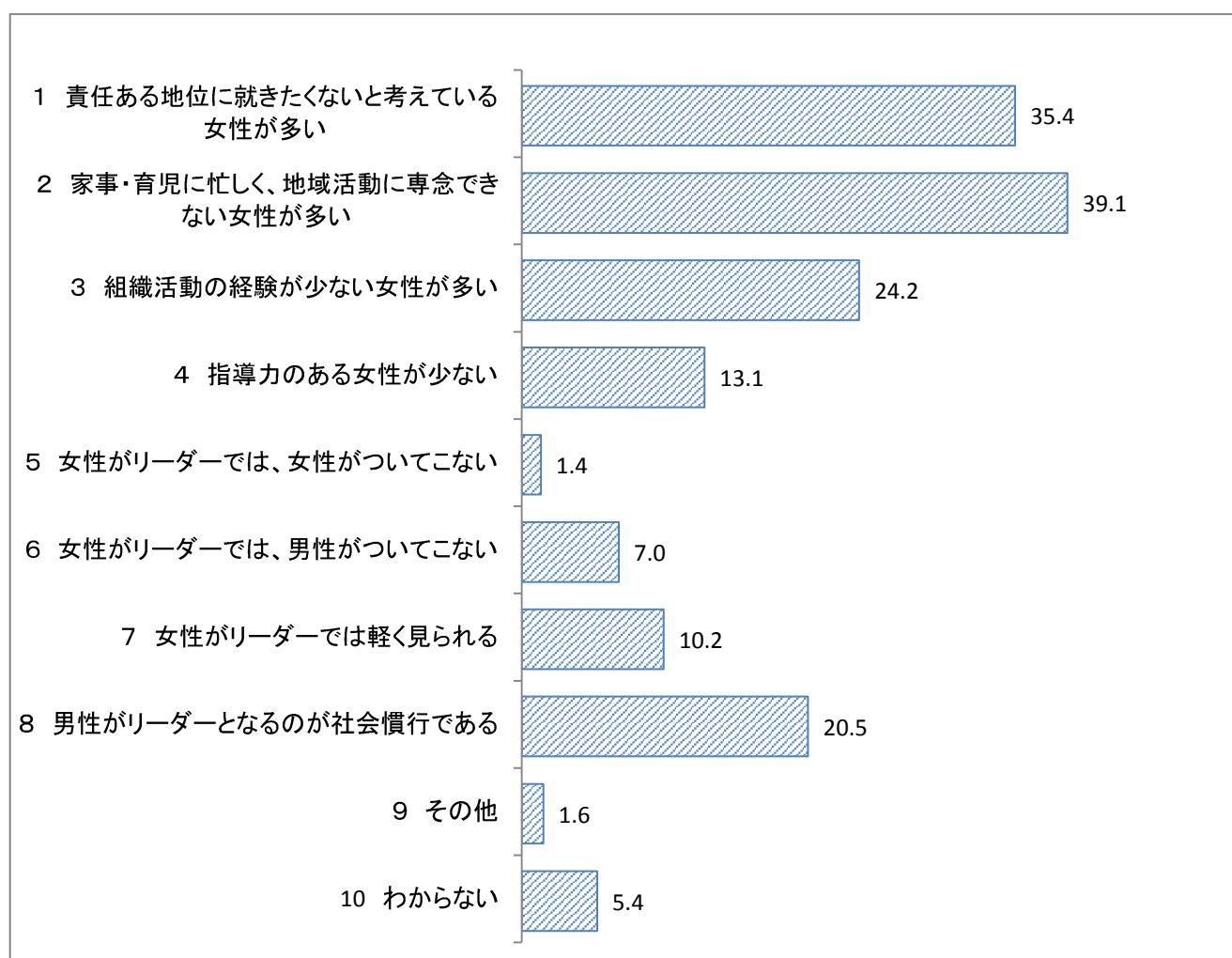


3. 23 女性リーダーが少ない理由

問23 自治会やPTAなどの活動では、会長や副会長などのリーダーに女性が少ない傾向にあります。その原因は何だと思いますか。（〇は2つまで）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	責任ある地位に就きたくないと考えている女性が多い	35.4
2	家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多い	39.1
3	組織活動の経験が少ない女性が多い	24.2
4	指導力のある女性が少ない	13.1
5	女性がリーダーでは、女性がついてこない	1.4
6	女性がリーダーでは、男性がついてこない	7.0
7	女性がリーダーでは軽く見られる	10.2
8	男性がリーダーとなるのが社会慣行である	20.5
9	その他	1.6
10	わからない	5.4

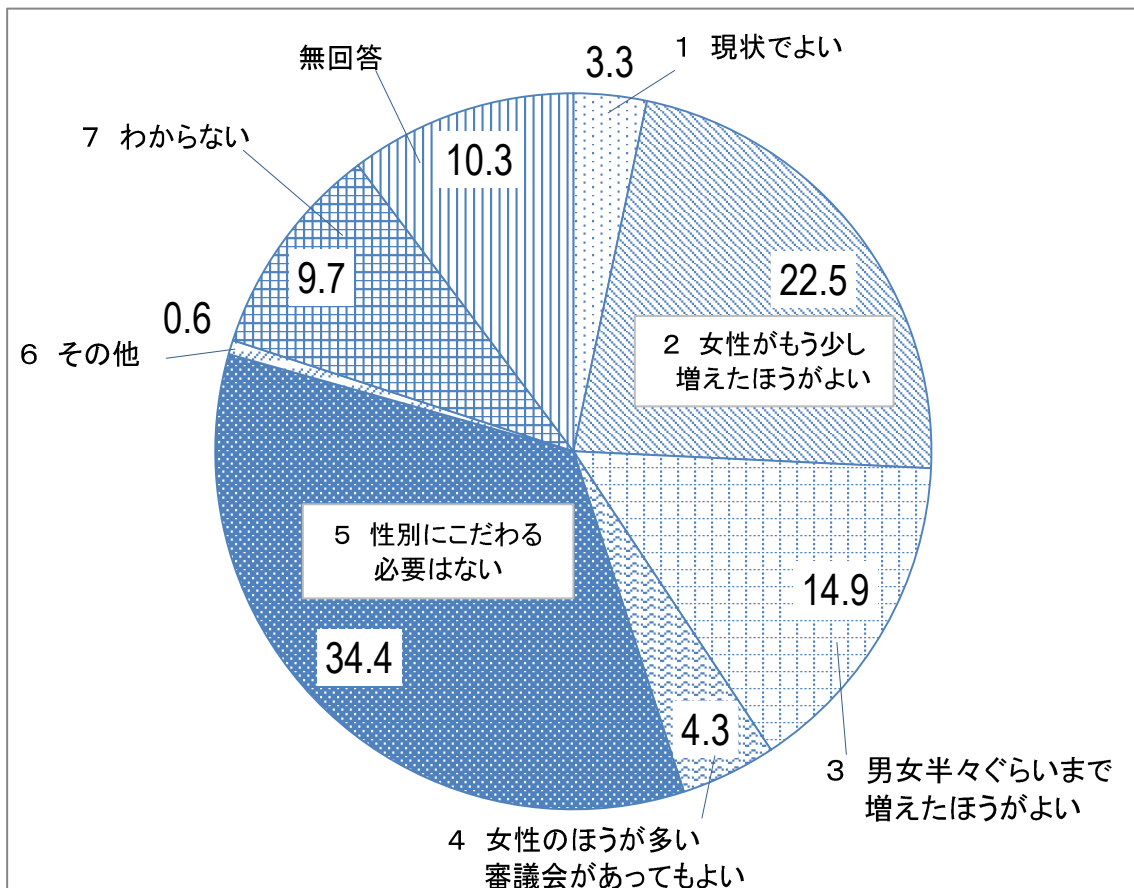


3.2.4 審議会等への女性委員の登用状況

問24 茂原市では、審議会等の女性委員の登用率を30%まで引き上げるという数値目標を設定していますが、平成25年度は18.8%となっています。このことについてあなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 現状でよい	3.3
2 女性がもう少し増えたほうがよい	22.5
3 男女半々ぐらいまで増えたほうがよい	14.9
4 女性のほうが多い審議会があってもよい	4.3
5 性別にこだわる必要はない	34.4
6 その他	0.6
7 わからない	9.7
無回答	10.3

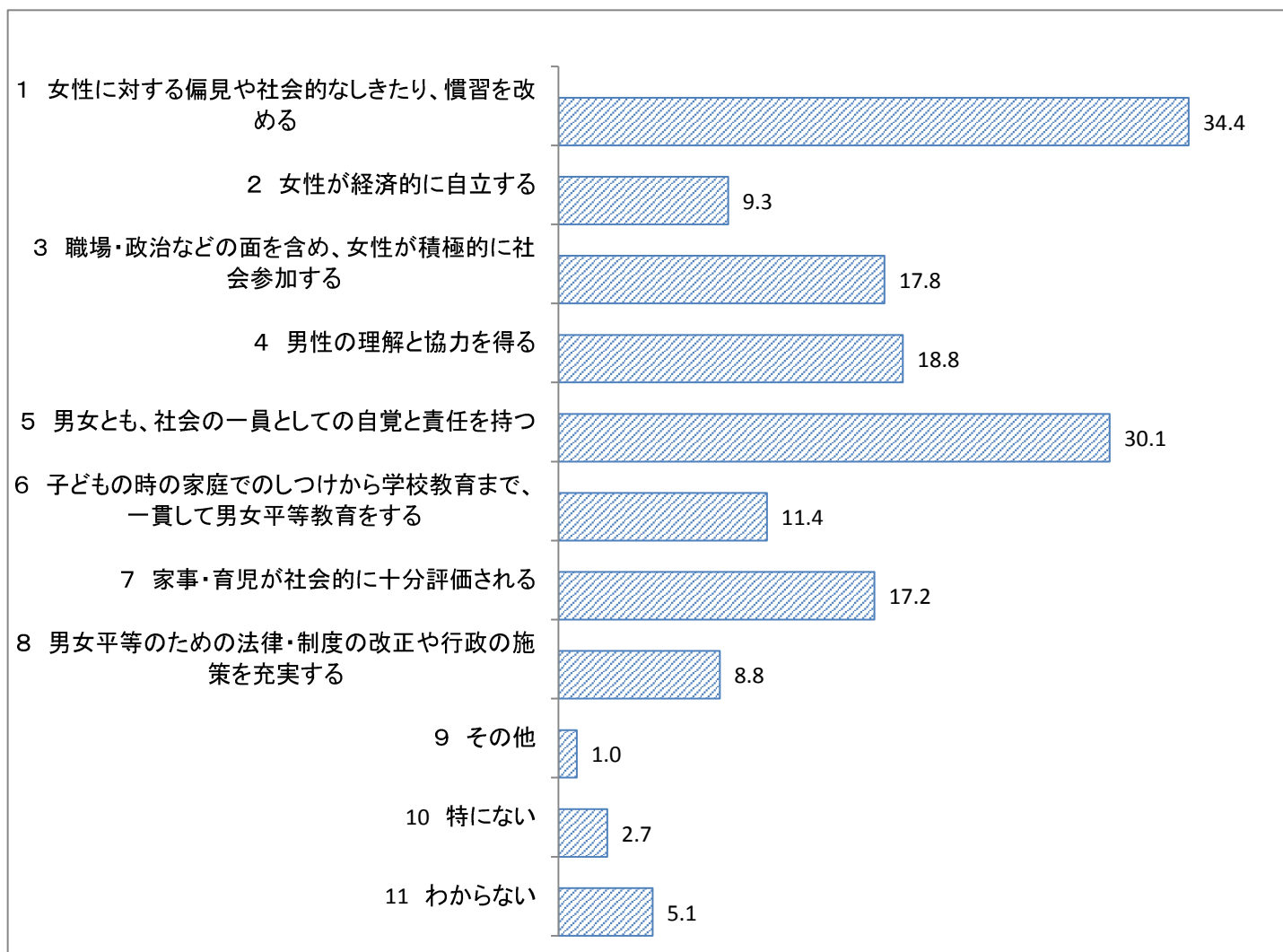


3.25 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

問25 女性の社会参加を進め、男女があらゆる分野で平等な立場で協力しあっているためには、どんなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

[n=291] 表中の数値は回答率(%)

1	女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める	34.4
2	女性が経済的に自立する	9.3
3	職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参加する	17.8
4	男性の理解と協力を得る	18.8
5	男女とも、社会の一員としての自覚と責任を持つ	30.1
6	子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする	11.4
7	家事・育児が社会的に十分評価される	17.2
8	男女平等のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する	8.8
9	その他	1.0
10	特にない	2.7
11	わからない	5.1

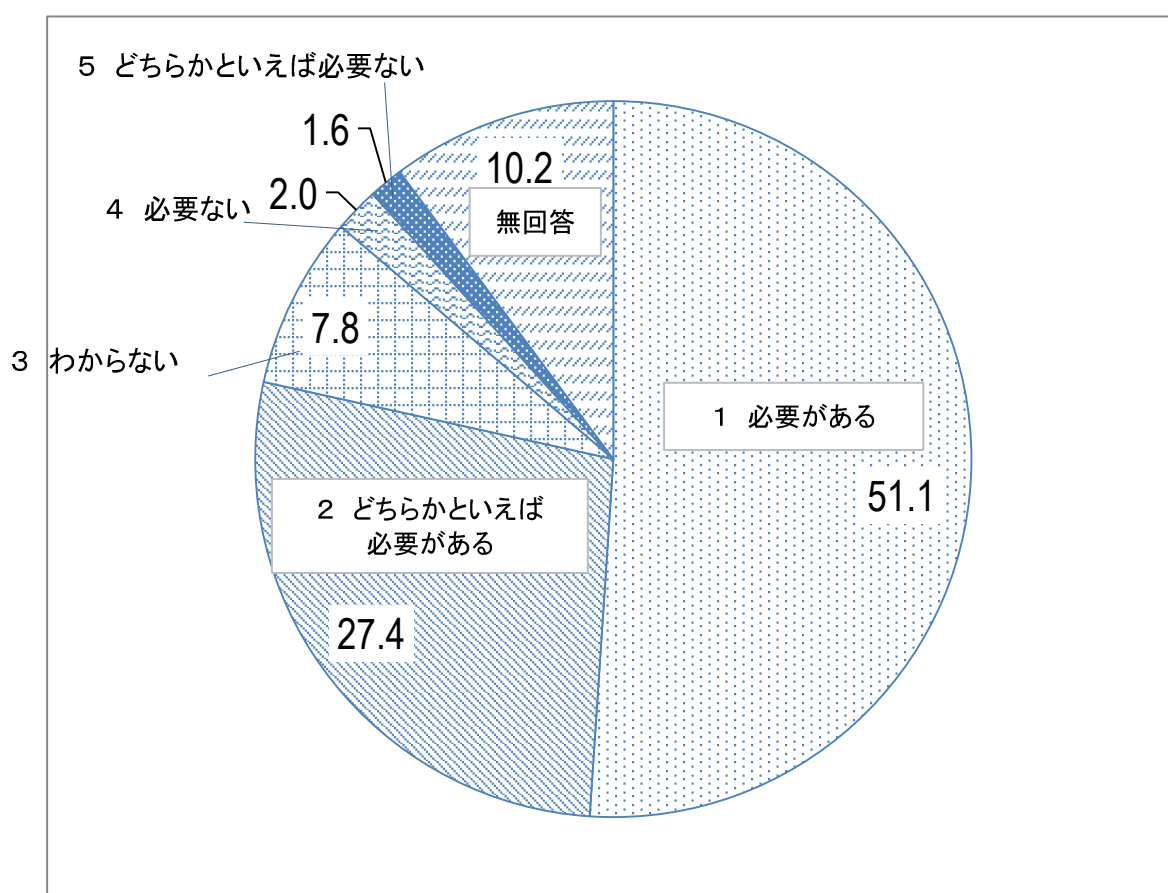


3.26 防災・災害復興対策への女性の視点に配慮した対応について

問26 あなたは、防災・災害復興対策に、女性の視点に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。（○は1つだけ）

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1 必要がある	51.1
2 どちらかといえば必要がある	27.4
3 わからない	7.8
4 必要ない	2.0
5 どちらかといえば必要ない	1.6
無回答	10.2

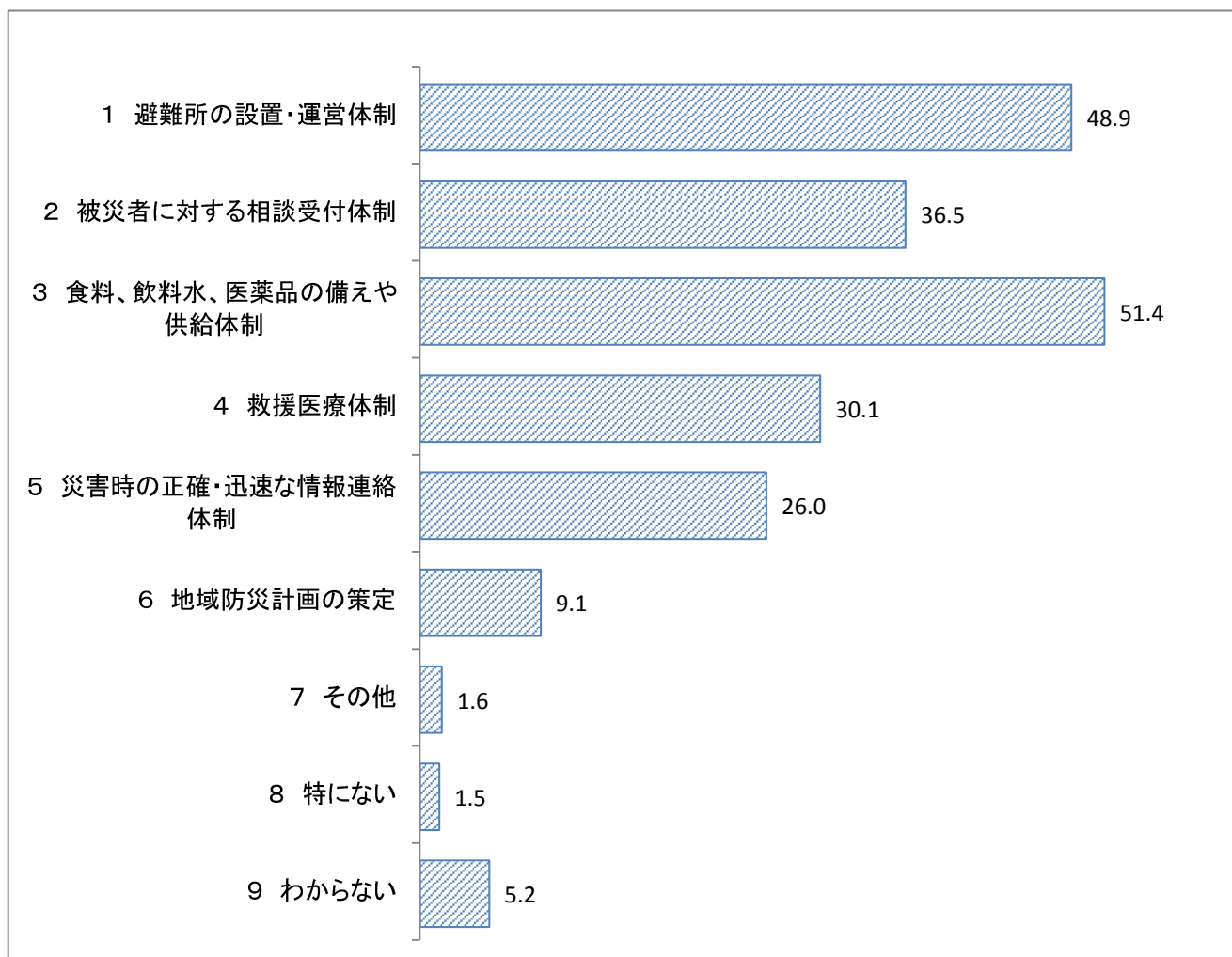


3. 2 7 防災・災害復興対策で女性の視点が必要なこと

問27 防災・災害復興対策で、女性の視点到配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(○は3つまで)

[n=1,091] 表中の数値は回答率(%)

1	避難所の設置・運営体制	48.9
2	被災者に対する相談受付体制	36.5
3	食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制	51.4
4	救援医療体制	30.1
5	災害時の正確・迅速な情報連絡体制	26.0
6	地域防災計画の策定	9.1
7	その他	1.6
8	特にない	1.5
9	わからない	5.2



3.28 男女共同参画社会の実現に向けた市への要望

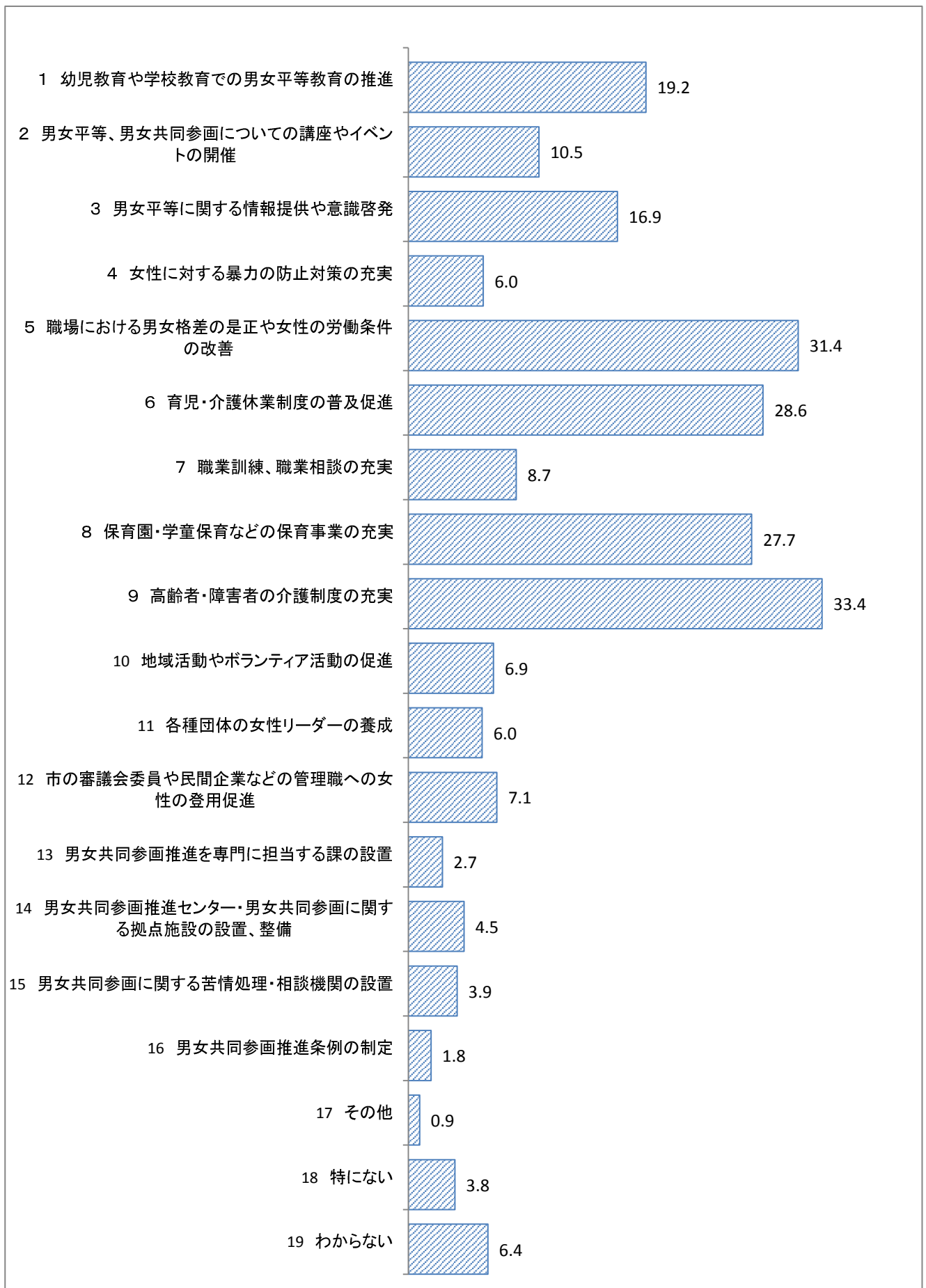
問28 男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか（○は3つまで）

[n=291] 表中の数値は回答率(%)

1	幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進	19.2
2	男女平等、男女共同参画についての講座やイベントの開催	10.5
3	男女平等に関する情報提供や意識啓発	16.9
4	女性に対する暴力の防止対策の充実	6.0
5	職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	31.4
6	育児・介護休業制度の普及促進	28.6
7	職業訓練、職業相談の充実	8.7
8	保育園・学童保育などの保育事業の充実	27.7
9	高齢者・障害者の介護制度の充実	33.4
10	地域活動やボランティア活動の促進	6.9
11	各種団体の女性リーダーの養成	6.0
12	市の審議会委員や民間企業などの管理職への女性の登用促進	7.1
13	男女共同参画推進を専門に担当する課の設置	2.7
14	男女共同参画推進センター・男女共同参画に関する拠点施設の設置、整備	4.5
15	男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置	3.9
16	男女共同参画推進条例の制定	1.8
17	その他	0.9
18	特にない	3.8
19	わからない	6.4

上位5件

①高齢者・障害者の介護制度の充実	33.4%
②職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	31.4%
③育児・介護休業制度の普及促進	28.6%
④保育園・学童保育などの保育事業の充実	27.7%
⑤幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進	19.2%



3.29 男女共同参画社会づくりに関する意見・要望

問29 男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

男女共同参画社会づくりに関する意見・要望については、回答者1,091人のうち、111人（男性49人、女性61人、不明1人）の方から回答が寄せられました。
ここでは意見や要望の概要について内容を分類してまとめました。
多くの貴重なご意見・ご要望をお寄せいただき、ありがとうございました。

◎社会全般に関すること

- ・市での取り組みを知らなかったので情報発信は必要だと思います。学校や地域での男女差別は減ってはいるように見えますが、一方ではまだ偏見や慣習が根強くあり改善・是正は必要です。職場における女性の地位、出産後の職場復帰等労働環境は改善を望みます。（20代・女性）
- ・男性と女性の間には合理的な「区別」以外の「差別」があってはならないと思います。しかし、年配の方に「男尊女卑」、「男は仕事、女は家庭」のような古い考え方が根強く、一度根付いてしまった考えを改めるのは難しいと思いますが、これをしなければいつまでたっても「男女共同参画社会」の実現はなされないと思います。若い世代では、小・中の授業でも『男女は本質的に平等である』といった話を聞くことが多かったように思いますが、大学に入って法学部で学び、平等観が自明の真実であると強く思うようになりました。「男女平等」は当たり前であるという考えを周知していくべきで、そのための講演会、講話会を行っていくのも良いと思います。あるいは、現に女性が持つ不平等さを是正するための積極的措置（アフェーマティブ・アクション、ポジティブ・アクション）としての制度づくりも、実質的な平等を担保していくためには大切だと思います。良い制度ができることを茂原市民として期待しています。（20代・男性）
- ・生活するのがやっとで男女共に余裕が無く周りに気をつけられません。（30代・男性）
- ・私の周囲では性差による不均衡はあまり見られませんが、税金、社会保険料、物価等が上がり生活が苦しいです。（30代・男性）
- ・どのような社会にしていく必要があるのかを議論する場を設けて欲しいです。インターネットも積極的に活用して、一人でも多く議論に参加できるようにして欲しいです。（30代・男性）
- ・歩行者の安全のため歩道の整備など、子供や老人などが安心して出かけられるようにしていただければ、子育てをしやすいまちとしてメリットがある。かなり交通量が多いのに歩道がない（もしくは橋など片側のみしか歩道がない）道路があり、スピードを出す車などで何度も危ない思いをしました。地域の自治会が独裁的で「仕事や家事など関係なく自治会を中心に」という考え方で、住人はそれが苦痛で引っ越す人が多いです。金銭的余裕のない人は我慢するしかありません。市では自治会のことには口を出せないのでしょうか。ある程度仕事や家庭の負担にならないような、各地域が基本となるもの（拘束などの精神・肉体的の苦痛回避）など一律で設定して欲しいです。（30代・女性）
- ・男と女が違うのは当然のことだが、女性が仕事に専念し地位を上げたい、仕事と育児を両立したい、育児に専念し子供をたくさんつくりたいという、どのような希望に対しても充実した結果が得られるようサポートしていくことが望ましい。個人的には3人以上子供を生む人への経済的優遇などしていただけたらうれしいです。（30代・女性）
- ・責任ある地位に就きたくない女性が多いと感じます。「茂原まるまるマルシェ」では運営者の行動力がすごいと思った。介護負担が家庭にのしかからない様に支援の充実を望みます。（30代・女性）

- ・今のままでは子供を育てながら働くのは難しく、早く女性が社会で活躍できるようになって欲しい。男性は独身時代と変わらず死ぬまで過ごせても、女性は家庭を持つと失うものが得るものより多いと思う。子供はもっと欲しいが一人で精一杯。仕事を選べず、フルタイムばかりで時間もとれず家事をする時間が足りない。市で主婦でも働ける仕事を増やして欲しい。子供の医療費の補助や手当を増やすべきだと思う。(30代・女性)
- ・様々な制度に所得制限があるのに疑問を感じます。子どもの医療受給券の発行に所得は無関係だと思います。(40代・女性)
- ・保育所が少ないため働く方の労働時間に無理が生じているのも現実です。男性の保育士に抵抗を持つ保護者もいます。地場産業が衰退し、安定した職・収入がなくては参画も困難だと思います。(40代・女性)
- ・男女平等については、発言権のある立場の人や大人が見本とならなければ、いくら学校で教えても無駄だと思う。セクハラやDVをしてしまう人は、育ってきた過程に問題があると思う。「自立した人を育てる」という意識を親が持たなければ、大人になっても「役立たず」「人に迷惑をかける」人になってしまうと思う。男性のほうが昇進しやすい慣習をなくしてほしい。子どもがいないと地域の行事に参加できないし、しにくく、行事自体を知らないで終わってしまう。男女平等とはいうが、女性は子どもを産むとき、産むまで(月経)の為男性に理解できない苦痛を毎月過ごさなければならず、ちゃんと生理休暇を取れるようにしてほしい。制度上可能でも実際に取れる人は、ほとんどいないと思う。役所内で会議や講演ばかりやっても、聞いて欲しい人たちが参加しなければ意味がないと思う。男女共同参画社会も大切だと思うけれども、茂原市自体が活気のある市になることを望みます。(40代・女性)
- ・女性市長を望む。市長は男性で副市长は女性でもよい。(40代・女性)
- ・過去に比べて男女の格差はなくなってきたように思います。女性の管理職も増えてきていますが、やはり女性らしさと教養を備えることが大切です。知識と教養を身につけたレベルの高い女性を開拓すべきで、国や市が女性教育に取り組む時が来ていると思います。人材を探してよりよい茂原市にしてください。(40代・女性)
- ・まだまだ女性の立場は弱く感じます。男性の理解と協力が必要です。(50代・女性)
- ・男女格差について、中小個人経営者等も含めた中での改革を進めるためにすぐ出来る事を考えるべきです。市役所でのサービス向上(男性より女性の方が対応が悪い)を希望します。(60代・男性)
- ・より良い社会づくりをお願いします。(60代・男性)
- ・年齢差のある中での経験が必要なため、複数世代同居家庭への補助金を出してはどうでしょうか。また、年に一度、婚姻届を出した夫婦に家庭・社会・男女の事等について講演会を行ってはどうでしょうか。(60代・女性)
- ・社会性、道徳性に欠けているように思われるため、親子の社会参加的な講演があると良い。(60代・女性)
- ・私たち夫婦は60歳を過ぎ年金生活で、特別養護老人施設を探しましたが200人待ちで、入居金、月の支払いが高かったりしました。デイサービスと訪問ヘルパーを利用しながら自宅での老々介護かと思いましたが、特養老人施設の増床をお願いします。(60代・女性)
- ・まだ男女差別意識の強い人がいます。教育や資格取得により職業人となった娘の結婚の際、嫁ぎ先から仕事を辞め同居を迫られました。男尊女卑が根強く残り、男子を産み育てた女性が差別する側になることがあります。女性側にも問題があるため、人間の本质まで考えさせられました。(60代・女性)

- ・育った環境、職場での地位・収入等細部にわたり条件の違いがありますが、各種行事に積極的に参加する人は思い通りに事が運ばない時に不満が出て、消極的な人は表面に出ない（役に就かない）ことを望んでいるように感じるが多かった。参加した人達全員に気配りのできる、これなら参加しても（楽しみながら）良いという集まりを作っていただきたい。人は誰も主役になりたいという思いが少しはあり、反面矢面に立ちたくはないという思いもあります。（70歳以上・男性）
- ・農村に近い地域（高齢者の多い地域）では、集会や集落の役員に女性の方は「女性だから〇〇したくない」という考えの方が多いです。早く男女共同参画推進条例を制定し、専門に担当する方による地域での講座やイベントを多く開催し、むしろ女性にその意識を持たせることが必要ではないかと思えます。（70歳以上・男性）
- ・1 家庭内の平等意識（尊敬、慈愛）、2 幼児期からリーダー経験させる、3 決断の前提とした相談、判断の訓練、評価、4 経済的自立のための女性職場の拡充（70歳以上・男性）
- ・85年を振り返って一番残念だったことは小学校の近くにも関わらず大型パチンコ店の出店を断れなかったことです。女として社会参画が低かったからか情報も届きませんでした。自治会の活動に参加している人は男性が多いのですが、家庭での話題も問われるため、女性の意見も必要だと思うにもかかわらず、なかなか自分の声が伝わらず煮えくり返していました。今は4人のひ孫と暮らしていますが、テレビなどで環境問題のことが報じられており、いつまでも住みやすいきれいな環境であって欲しいと思えます。男女の思いやりのある社会の到来を祈っております。（70歳以上・女性）
- ・男女平等がいいのかどうかは分かりません。かしこく生きることが良いと思えます。（70歳以上・女性）
- ・公務員は長期の育児休暇をとっても職場に戻れるが、一般企業では難しい。男女平等の前に、世の中全体が平等でなければならないと思う。（70歳以上・女性）

◎茂原市の行政に関すること

- ・防災対策面における女性への配慮は、特に急いで検討し実行してもらいたい。（20代・男性）
- ・公務員の給与が高過ぎる（民間よりも）。給与を低くして男女共働かなければいけない状態を作るべき。公務員は常に時代遅れ。数十年前の体制や体系が残り変化していない。自らが変わらない限り市民国民が変わらない。自分たちが特別扱いされている事に気づいてください。（50代・男性）
- ・意見・要望はある程度出揃ったものと思われることから、今後は具体的な実行の段階に移行しなければならないものと考えらる。例として、専門委員等の女性30%程度の選任は市が実行すれば可能ではないか。（60代・男性）
- ・公民館や二宮福祉センターで健康のために社交ダンスで世話になっています。本当にありがとうございます。（70歳以上・男性）
- ・茂原市が今全力で取り組む必要がある課題は水害対策。どうでもいいことに市の力を分散しないで下さい。こんな調査に時間を使うなら一宮川の草でも刈ってほしい。市民の財産をいつまでたっても守れないのに余計なことをしないで。（年齢不詳・性別不詳）

◎男女の根本的な違いと役割分担に関すること

- ・人間の能力に平等はなく、男女においてもそれぞれ能力が異なる。能力のある人や上に立つ人、又は恵まれた人達が、そうでない人達にどう接するかが問われる。そういう教育、社会になってほしい。心の教育が必要です。（40代・女性）
- ・男女平等とはお互いの人格を尊重することであって、男女が全く同じ役割をすることではないと思います。（50代・女性）
- ・まだまだ女性が育児、介護するのが当たり前になっている。男性の協力があってこそ女性が地域に出ることができる。個々の考え方が重要だと思います。（50代・女性）
- ・何が何でも男女平等との基本的な考えは当然だが、一方で無理が生じるのも当然である。いかに男女の肉体的な相違点を理解して対応するかにかかっているのので、この点を機会を捉えて施策を推進すべきである。（60代・男性）
- ・男女には各々特性があり、どんなに頑張っても変えられないことがある。役割分担についても、共働きや退職後等、時期や状況により変化があると思う。（70歳以上・女性）

◎「男らしさ」「女らしさ」よりも「人間らしさ」を

- ・性別ではなく、人や性格を尊重する様な社会になってほしい。男性は仕事をしていればいいという考えを改めるべきで、介護や家庭の仕事も男性が自ら進んですれば女性も社会進出しやすくなると思う。（30代・女性）
- ・ストーカーによる殺人やいやがらせ等の事件が多発しています。法整備されていないのが原因のひとつですが、犯人は、男尊女卑の考え方を持っている人が多いと考えます（日本人男性の多くが持っているものかもしれません）。学校教育の現場では、少しずつ男女共同参画を意識した指導が広まっていると思います。私自身も以前男女共同参画に関わる研究・発表を行いました。職場の男性職員にも積極的に働きかけ、だいぶ意識が変わったと思います。しかし、生徒のほうが柔軟に対応できている印象を受けました。また、保護者のアンケートでも、職場における男女格差は、ある程度は仕方ないというものが大半でした。頭の柔らかい子供たちへの指導と行政が手を携えていくことが理想だと思いますが・・・難しいですね。性差による特徴はあるものなので、「男だから」「女だから」だけの議論ではなく、お互いが認め合い尊重できるといったことを基本に考えるとよいと思います。（40代・女性）
- ・性別ではなく個として認め合える社会が良い。脳の組織が異なるので男女全て同じというわけにはいかない。子育ても介護も人任せではなく必要なときに休暇が取得できたらよい。しかし、制度があっても休暇が取りづらい現状のため、社会や人の意識が変わらなければ難しいと思う。（50代・女性）
- ・共働きですごしてきた生涯で、現在も気づいて先に出来る者が自然に行動する。また、それぞれの持ち味、得意とすることには積極的に行動し、補助できることはさりげなく実行してお互いにその範囲を侵さず、状況によりその範囲を流動的に移行し合い常にありがたいの気持ちで受け取るよう心がけている。必要以上に男・女の区別意識を持たずに人間として出来ることをお互いに大切に思いながら生活していきたいと思っています。（70歳以上・男性）
- ・男性の女性軽視は是正してほしいが、近頃目に余るのは男の弱さ。男らしい男がいない、少ないと感じる。男女は人間としては平等であるが、男らしく女らしくという心の持ち方は必要です。（70歳以上・女性）

◎男女平等意識、男女共同参画意識について

- ・男性と女性は考え方が違うので、どの企画にも半々のメンバーがよいと思う。（30代・男性）

- ・男女共同参画社会づくりに向けての取り組みは役人の目線からでは無駄だと思う。
(30代・男性)
- ・大学時代に就職の件で母親に「女はどうせ嫁に行くんだから」と言われたことが忘れられません。社会でもそれが一般的であり、その考え方を嫌います。身体能力等を考慮しながら女性の地位向上を望みます。(30代・女性)
- ・女性が社会進出をして社会的地位を得ることばかりが「男女平等」「男女共同参画社会づくり」につながるのではないと思います。女性が社会的地位を得ても良いような法改正、整備をお願いします。そのためには、昔から根付いている「男尊女卑」という考えを改め、今後は家庭内での教育や社会づくりがとても大切だと考えます。ヨーロッパでは夫婦間では男女平等で、女性の立場が低いというのではないそうです。むしろお互いを認め合って尊重しあう間柄だそうです。日本ではまだまだそういう意識は薄いと思います。女性が社会進出することを推進する前に、家庭内での男女の違いを理解し、そしてお互いを尊重することを教育するというのがとても大切だと思います。さらに学校や社会全体でもそのような役割を果たしていただけるような法改正をお願いしたいと思います。
(30代・女性)
- ・男女平等というものが、それぞれの特性や能力にかまわず、何でも平等にするという風潮がおかしい。(40代・男性)
- ・この調査を通じて私の意識の根底に「男は社会で働いて、女は家庭を守る」という感覚があることに気づかされたように思います。私自身が「古い考えの人間」なのかもしれませんが、この感覚を変革させるには人生経験、生育歴、教育といったものの見直しが必要であると感じます。(40代・男性)
- ・男女共同参画社会を推進することは、家庭崩壊、家族の絆を弱める結果となる。個人の権利ばかり主張する女性が増え、子育てをほかの人に押し付けることで、子供は精神的に不安定になり将来犯罪を起こす率が高い。セクハラ・DVよりも幼児虐待の方が問題。女性の社会進出を進めることよりも、母親が心おきなく子育てのできる環境にすることがはるかに大事だと思う。行政が税金と職員を使って男女共同参画社会を目指すことは、しなくても良いこと、しないほうが良いことと思えてならない。(50代・男性)
- ・茂原市男女共同参画計画が実施されていることすら知りませんでした。職場や社会では、男女平等の意識等はいわれる様になりましたが、現実はまだまだ女の方が不利な社会と思われれます。私どもが若い頃は、結婚・出産の折には、仕事を辞めるのが当然のような時代でした。子育てを終わるとただ収入のない扶養者となり、仕事のない、経済的に自立できない立場となってしまいます。今でも思うことは、仕事を続けられていたらどんなに良かったかと。若い人たちにはぜひ仕事を持って結婚子育てにがんばってもらいたいと思います。それには、公的な支援も必要だと思います。茂原市男女共同参画計画については、もっと市民に発信していくことが大事と思われれます。(50代・女性)
- ・男女共同参画と言われながら、地域や職場での理解・助成が遅れている。家内専門者の経済的評価を保障し、平等や自立、地位、女性の権利を明確に定義づけすべきです。
(50代・女性)
- ・急に極端な女性の社会参加・起用する事はどうなのかと思う。本人の実力、才能もないのに形だけなのは無駄。それぞれひとつひとつ時間をかけて育てていくほうが本人の為にも(女性の信用にも)大切だと思います。女性・男性関係なく、しっかりやってらっしゃる方はいます。あれこれ言って、それをつぶさずみんなで支えていけばいいと思います。
(50代・女性)
- ・今までの日本の対策(女性への考え方)を抜本的に変えていかねばならない。安倍内閣では女性の幹部への登用等を推進していますが、男女平等という観点から取り組まなければならないと思います。(50代・女性)

- ・性差を無視した平等は真の平等とはいえません。男女の特性を生かした上で、家庭においては夫婦が協力・協働して家事、子育て、介護などを行い、仕事の上では男女を問わず能力を最大限発揮できる職場環境、人事体系、能力に応じた給与体系がとられることが望ましいと考えます。男だから、女だからと性別による比較が述べられること自体がすでに男女双方から見て差別だと思えます。すでに女性の現場監督や電車の運転士、男性の保育士や看護師など今までは男の職業、女の職業と考えられていた職場へそれぞれが進出しており、今後はさらに進んでいくでしょう。男女の区別は必要だと思えますが、今後少子高齢化に伴いますます女性の社会進出が必要不可欠になっていくでしょう。それにより性別にとられることなく、個人としての特性が重要視される社会になってほしいと思えます。(50代・女性)
- ・男女共同参画は大変難しい課題で実現するには長い時間がかかると思います。日本の歴史そのものに変化を与える取り組みと考えますので、出来ることを少しずつ積み重ねてほしいと思えます。(60代・男性)
- ・世間一般では男女平等といっているが、未だ男尊女卑となっているのが現実である。しかしながら多少ではあるが、女性ががんばっているのが見られる。もっともっと頑張り、女尊男卑の社会になってもよいのではないか。(60代・男性)
- ・憲法の平等という考えを啓蒙することが大切で、数値目標を設けることは適切ではないと思う。数値が上昇すれば進んでいるということではなく、もっと人間の本質的問題である。市町村で個々に対応するとサービスに差が出てしまうので国が主となり取り組むべきである。(60代・男性)
- ・男女雇用機会均等法とよく今まで耳にしてきましたが、企業関係他ほとんど内容がついてきていない。名前負けで非常に残念です。また、男女共同参画社会でも同じく内容、実態とも名前ばかりではないでしょうか。市に期待できるのでしょうか、頑張ってください。(60代・女性)
- ・男女が社会の対等な構成員になるためには、女性がもっと学習する機会を多く催すことが良いと思います。60歳以上の女性が勉強して、社会に参加するのが最も良いことです。(60代・女性)
- ・全て人間平等、男女平等ではありませんが、対等であって欲しいと思えます。(60代・女性)
- ・60才以上の世代は「男は仕事、女は家庭」という考えの下に過ごしてきた。今は共働きで家庭の仕事も折半という考え。それを見ている子供は自然に男女平等の考えが生まれる。結婚しても不利にならず子育て環境も整うよう、行政側でいろいろな推進活動をお願いします。(60代・女性)
- ・男女平等は絶対に大事ですが、女性の収入向上により離婚夫婦が多くなりつつあり考えさせられます。(70歳以上・男性)
- ・男女共同参画社会づくりなんて馬鹿なことをしていると、中国の一人っ子政策と同じで子どもが生まれない社会になる。(70歳以上・男性)
- ・男女共同参画社会づくりと平等さが女性を優遇しすぎる状況がみられる。あくまで平等を実施してほしい。(70歳以上・男性)
- ・現在の社会では、一般的に男性優位社会でまかり通っているのが現状と思われる。アンケートの中にもいろいろな趣旨が示されているが、特に男女格差の是正は当然であるが、女性らしさの個性を発揮する社会を構築することを願う。(70歳以上・男性)
- ・自民党がお飾りのように女性を登用している感じが腹立たしい。夫婦別姓を認めず、婚外子の相続問題など正統的な婚姻関係が崩れることを恐れる女性議員にも我慢がならない。市役所の受付も女性二人ではなく男女一人ずつにすべきです。(70歳以上・女性)
- ・家庭にあっては家事について理解がほしいと思うこともありますが、年齢的に限界かと。がんばるしかないというところです。(70歳以上・女性)

- ・ テレビ等を通じても女性の管理職が見られるようになり、登用割合も50%ずつが理想でしょうが、いずれ女性が多くなる時もきっと来るのではないのでしょうか。昭和初期に生まれ育った人の考え方を变えるのは難しいと思いますが、教育等で変えられると信じています。女性の管理者は必要ですから、徐々に増して行けばいいと思います。
(70歳以上・女性)

◎男女共同参画社会づくりに関する広報・周知について

- ・ 「男女共同参画」という活動があったことを知りませんでした。皆さんに届くように活動を広めてください。(30代・女性)
- ・ 男女共同参画社会や計画の周知が必要です。一市民として実感が無い。差別はあってはならないが、男女の区別はあって当然だと思う。(50代・女性)
- ・ モデルとなるような活動をしているグループをどんどん紹介したら良いと思います。(60代・男性)
- ・ 男女平等参画の啓蒙とは心への動機づけだと思う。事例を沢山集め、行政や会社や地域での成功例や失敗例を市民に見せてほしい。(70歳以上・男性)
- ・ 初めて取組みを知った。市民の関心の無さもあるが、行政の「やっていたら良い」という意識もあるのではないかと思う。(70歳以上・男性)

◎男女共同参画社会づくりに向けての意識調査について

- ・ 今回のアンケートは女性にばかり視点をもっていて平等とはいえない。(20代・男性)
- ・ 作成者のエゴが強く、女性を意識し過ぎ。女性優遇にしたいのですか？男女関係なく一人の人間として尊重し、助け合える世の中、社会になる事が望ましい。(30代・男性)
- ・ どのような計画・施策が行われているかわかりませんが、調査結果をただの統計とせず、市民の声としてとらえてもらいたい。(30代・女性)
- ・ 今回のアンケート参加させていただきありがとうございました。このアンケートですが、いつ結果発表がありますか。そしてこの「アンケート実施後の先」はどのように考えていますか。茂原市は企業も多く「男女」という点では企業に意見を伝えていくのですか。あと、このようなアンケートもいいのですが、まちの復興についても意見を言える機会をください。シャッターを閉めていたり金貸しの店舗が増えている現状を市の職員はどう考えていますか。意見はたくさんありますので提案する機会をお願いします。(40代・男性)
- ・ この様なアンケートをする事がおかしい。女性女性と強制する様な事ではない。門戸を開けておく事と、体制を整えておく事、情報を公開しておく事で十分。DVやセクハラも同様にアンケートをとる理由も不明である。地域行事で休める会社は多くないはず。それを理解しているのか？公務員の常識で考えないでほしい。(40代・男性)
- ・ 今まで特に男女平等など考えたこともなかったので、このアンケートを書くことによって考えさせられました。(40代・女性)
- ・ 大変難しいアンケートでした。(50代・男性)
- ・ 市役所の女性職員、女性管理職の割合や取組み等を示してアンケートをすべきである。(50代・男性)
- ・ アンケート項目がもう少し減らしていただけたら幸いです。アンケートもホームページでやってもよいのでは。(50代・男性)

- ・ 茂原市でこのような社会づくりに取り組んでいることは知りませんでした。この調査が役に立って今まで以上に住みやすく、素晴らしい茂原市になるといいですね。
(50代・女性)
- ・ 今回の意識調査アンケートをきっかけに、親子でも男女平等に関する話題になり大変いい機会になりました。このように家庭内でコミュニケーションをとることも、非常に大切なことだと改めて感じました。(50代・女性)
- ・ この意識調査結果を踏まえ、市が真剣に取り組むことを望む。市議会、市役所、審議会等の方々の意識が全員一致して前向きに取り組んでいることを示してもらいたい。結果を明確に広報等に掲載することを望む。(60代・男性)
- ・ 私は71才で、固定観念がかなり根強く残っているので、この調査の対象としては適当でない気がします。(70歳以上・男性)
- ・ この様な企画は今後の市政に役立つものと期待しております。可能性を願うなら一步前進した全体が活気ある企画がアンケートの中にあるとよりよかったですと思います。市全体が活気ある明るい市に発展することを願っております。(70歳以上・男性)
- ・ この意識調査で何がわかるのか意図がわからない。分析して結果を広報で知らせてほしい。(70歳以上・男性)
- ・ 高齢で未亡人の私に無作為とは言っても選ばれるとは思っていませんでした。回答は今の私の考え方では役立つとは思われませんが、お許しください。(70歳以上・女性)
- ・ 市のアンケートへの回答は、市町村合併、介護保険等に続き3回目となりました。ひとつひとつの問いは、なるほどと考えさせられました。(70歳以上・女性)

◎子育て環境、教育について

- ・ 私は小学校からずっと「男女平等」について学校で考えさせられ教育を受けてきました。まだ学生なので、社会で「男女平等」の体制がどれほど整っているのか分かりませんが、家ではやはり「父親は仕事があるから家事をやらなくてよい。」という考えが未だにあって、その考えが私はとても嫌です。学校では「男女平等に、男女が協力し合って仕事も家事も行うべき。」という教育を受けてきたのに、家に帰ってみれば大人である親たちの中では「男女平等」という概念がないので、小さい頃から疑問を感じていました。若い世代は「男女平等」という概念を学校教育で十分理解していると思いますが、40代以上の世代では「男女平等」を分かっていない人たちが多すぎる気がします。ぜひ、幼児教育学校教育の他に「大人の教育」にも力を入れていただきたいです。(20代・女性)
- ・ 入所基準を見直し、保育所に入りやすくしてほしい。介護する側の負担軽減。一時保育等、気軽に保育所を使えるようにしてほしい。(30代・男性)
- ・ 保育士を出産前までしていましたが女性が多数でした。父親と過ごす時間が少ない子供達には「お父さん」的な役割であるため男性保育士も必要だと思います。しかし、専門職なのに給料が少ないため男性は皆辞めてしまうのが現状です。(30代・女性)
- ・ 女性が働きやすい、子供達が安心していられる環境であれば、預けてもっと働きたい。
(30代・女性)
- ・ 育児のことを最優先にできない男性が多い。育児に対する理解を職場では得られない。家庭の事情もいろいろあるため、社会に積極的に参加しない選択肢も認める社会にしてほしい。(30代・女性)

- ・ 中学校教諭です。学校現場では男女平等教育を推進しています。その一番が、男女混合名簿です。長生地区では100%の学校が取り入れています。頭の古い校長や教育長のいるところ、銚子や鴨川方面では、男子が先、女子が後ろという名簿に逆行しています。未だに入学式や卒業式の入場が男の子が先なのだそうです。それが差別につながっていると大人の方が気づいていないのです。そのような世の中でいくら男女共同参画といってもムダです。中学校では職場体験が多く行われていますが、受け入れる側が、例えば、保育所は女子、消防署は男子などとバカげた指定をしてくる場合もあります。学校より社会（大人）の方が分かっていないのです。ぜひ、「ももたろうノーリターンズ」を読んで、著者の方を講演に呼んで、大人の方々に聞いてもらいたい。（西陵中が呼びましたが）茂原市のハートフル共生プランも、もっと宣伝してください！（40代・女性）
- ・ 事件の多様化、心の健康を損なう人の増加している社会情勢やニーズは男女平等を求めているのか？すべての基本は親子・家庭にある。保育所等で他人の愛（？）で育つ子供をこれ以上増やすべきではない。（40代・女性）
- ・ 学校教育を充実させること、教育にかける予算の拡充。「思えば思われる」これが答えです。よい方向で進みますよう期待しています。（50代・男性）
- ・ 若い世代の転入が無ければ人口は減る一方です。保育料を安くし、休日保育、子供医療、家族で参加可能なイベントを実施してほしいです。（50代・女性）
- ・ 意識改革に取り組み、幼少期からの教育が重要です。教育現場では、教える側の意識改革や教育者間のセクハラや差別を無くすことが必要。安心して子供を産める環境を整えたり、賃金や休暇が取りづらい問題など、社会全体で取り組む課題が多くあると思う。男性主導社会が改善され、女性が多く起用されることを希望します。（50代・女性）
- ・ 人間にとって子育てが一番重要で、それを有効に果たせるのは女性です。「業」社会にどうしても出たい女性はそれでもよいが、子供を犠牲にしてはいけません。（60代・男性）
- ・ 小さい時から、身体的な違いはあるものの、考え方や知識の蓄積に差はないことを学習していくことが、将来違和感を持たなくなる大きな要素ではないか。過去の男尊女卑の概念を払拭することが必要で、家庭内においても平等を意識する必要がある。（60代・男性）
- ・ 固定観念をなくして、気づき・相談・コミュニケーションの早期教育が必要。（60代・男性）
- ・ 幼い時代からの教え、親がお手本ではないでしょうか。欠点ばかり探している人は幸せではありません。（60代・女性）
- ・ 小学生時のしつけが重要。（70歳以上・男性）

◎労働、働きやすい環境について

- ・ 育休後に働きたいと思える環境を作るため、保育料値下げ、子ども手当のような支給をお願いしたい。（20代・女性）
- ・ 核家族の家庭の母親は、子供の長期休暇中に働きたい場合、子供を預かってくれるところがありません。学童なども考えられますが、費用の問題があり、もう少し安く利用できると助かります。少子化に貢献しても子供の人数が増えると生活が苦しくなるので、子供の多い家庭には母親が働きやすくなるように何か優遇してもらいたいと思います。（30代・女性）

- 男女ともに労働条件が整い、職場内でも理解・協力があれば、少子化、晩婚、未婚、介護、雇用、あらゆる問題が前向きな動きとなると思う。安定した雇用、収入、休暇が取得できれば結婚も子供を持つことも考えられると思います。若者に限らず、すべての年齢の方が一つのことを区切られないような社会を願います。特に労働、雇用、賃金に関しては、年齢制限により働けない高齢者や40代前後の男性非正規社員もたくさんいます。非正規でも責任のある仕事をしているにも関わらず正規になれない現状や、有給を取りたくても人手不足で取得できない職場、必要最低限の人員で運営する会社もたくさんあります。若者重視の就職活動または募集も見直されるべきだと思います。賃金や休暇に安心できれば次に何をやろうかと意欲がわくと思います。（30代・女性）
- 以前は子供がいるというだけでパート等の採用をキャンセルされたことがあります。こういう差別が無くなれば女性も仕事がしやすいと思います。（30代・女性）
- 職場において上下関係なく「さん」づけで呼び、皆同じ位置に見せると良いと思う。（40代・男性）
- どんなに良い法律を作っても、会社が活用できていないと思う。会社では、ギリギリの人数で仕事をしているので、そこまで余裕のある会社は少ないと思う。いざ制度を活用しようとする肩身の狭い思いをしたり、活用できなかったり、中小企業ではなかなか厳しいと思うので、そのあたりのことも考えて欲しい。（40代・男性）

4 参考資料（調査票）

茂原市男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

日頃より、市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

茂原市では、男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、平成23年3月に「男女ハートフル共生プラン～茂原市男女共同参画計画（第2次）～」を策定し、さまざまな施策を展開しております。



この計画は平成23年度から平成27年度までの5年間を計画期間としており、社会情勢やニーズの変化に応じて見直しを行うこととされています。

計画策定から2年余が経過し、少子高齢化・高度情報化・国際化など社会環境が大きく変動する中で、男女共同参画社会づくりに関する市民の皆さんの意識の変化をとらえ、市民生活を送る上で直面している新たな問題に対処するため、市では「茂原市男女共同参画計画」の見直しを進めています。

このたび計画の見直しにあたり、市民の皆さんの男女共同参画社会づくりに関するご意見を伺い、市が今後取り組むべき施策の基礎資料とするため、調査を実施させていただくことになりました。

調査の対象として、平成25年11月15日時点に市内にお住まいの20歳以上の男女3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。調査結果については全て統計的に処理を行い、回答いただいた内容は調査目的以外には使用されません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、御協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、対象者が転出等によりいない場合につきましてはお手数ですが破棄してくださるようお願いいたします。

平成25年12月

茂原市長 田中 豊彦

ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。
2. 住所・氏名を記入する必要はありません。
3. 回答は、この用紙(両面刷)に直接記入し、当てはまる回答の番号に○をつけてください。回答の中で「その他」を選んだ方は、その内容を（ ）の中にご記入ください。筆記用具は鉛筆・ボールペンなど何でもかまいませんが、はっきりわかりやすく書いてください。

A.あなたの性別は、

(回答例)

1 男

② 女

4. 質問によっては、当てはまる方のみお答えいただくものもありますが、説明に従って最後までお進みください。
5. 全ての記入が終わりましたら、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ（切手不要）、

12月20日（金）までに ポストに投函してください。

6. この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市企画財政部企画政策課

TEL20-1651、FAX20-1603、Eメール kikaku2@city.mobara.chiba.jp

※アンケートの結果については、茂原市ホームページなどで後日お知らせします

【はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします】

A.あなたの性別は、

1 男	2 女
-----	-----

B.あなたの年齢は、

1 20～29 歳	4 50～59 歳
2 30～39 歳	5 60～69 歳
3 40～49 歳	6 70 歳以上

C.あなたのお住まいは、

1 茂原地区（既成市街地） [茂原、茂原西、高師、高師町、高師台、萩原町、千代田町、八千代、道表、東部台、小林飛地、中部、町保]
2 茂原地区（その他） [上林、鷺巣、上茂原、箕輪、長谷、内長谷、墨田、早野新田、東茂原、大芝]
3 東郷地区 [千町、六ツ野、木崎、谷本、本小轡、小轡、新小轡、七渡、東郷、中之郷飛地、川島飛地]
4 豊田地区 [長尾、大登、小林、渋谷、腰当、北塚]
5 二宮地区 [国府関、真名、山崎、押日（緑園台含む）、黒戸、庄吉、芦網]
6 鶴枝地区 [上永吉、下永吉、猿袋、三ヶ谷、立木、台田、野牛、中の島町]
7 五郷地区 [早野、綱島、中善寺、石神、八幡原、六田台、緑町、長清水]
8 本納地区 [本納、法目、高田、榎神房、西野、小萱場]
9 新治地区 [下太田、上太田、大沢、柴名、桂、吉井上、吉井下]
10 豊岡地区 [萱場、弓渡、粟生野、御蔵芝、清水、千沢、南吉田]
11 緑ヶ丘地区 [緑ヶ丘]

D.あなたのご職業は、

1 農林漁業	5 会社員	9 無職
2 商工業・サービス業	6 公務員・団体職員	10 パート・アルバイト・派遣など
3 医師・弁護士など	7 専業主婦・主夫	11 その他 ()
4 その他自営業	8 学生	

E.あなたの世帯は、

1 ひとり暮らし	4 親と子ども夫婦 (二世世代家族)
2 夫婦のみ (一世世代家族)	5 親と子ども夫婦と孫 (三世世代家族)
3 親と子ども (核家族)	6 その他 ()

F.あなたは、結婚していますか？

1 結婚している (未入籍だがパートナーと暮らしている場合も含む)	→F-1.へお進みください
2 死別・離別	} 次ページ 問1.へお進みください
3 結婚していない	

F-1.あなたとあなたの配偶者・パートナーは、共働きですか。(パート・アルバイト・派遣等を含む)

1 夫婦 (男女) 共働き
2 夫 (男性) だけ働いている
3 妻 (女性) だけ働いている
4 夫婦 (男女) とも働いていない

F-2.お子さんはいますか。

1 いる	2 いない
------	-------

↓
次ページ 問1.へお進みください

【男女平等意識について】

問 1.現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。それともそう思いませんか。(○は各項目1つずつ)

項 目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場の中で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
(キ) 政治や政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
(ク) 全体として	1	2	3	4	5	6

問 2.次の言葉を知っていますか。(○は各項目1つずつ)

項 目	よく知っている	聞いたことはある	知らない
(ア) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(イ) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(ウ) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(エ) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
(オ) DV (ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
(カ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3
(キ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
(ク) エンパワーメント (力をつけること)	1	2	3
(ケ) アンペイドワーク (家事・育児・介護・看護等の無償労働)	1	2	3
(コ) 男女ハートフル共生プラン～茂原市男女共同参画計画～	1	2	3

問 3.あなたは、男性及び女性の役割や地位など、男女平等について話し合ったり、学習したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 配偶者や恋人と話した	5 職場で話したり学習したりした
2 親子で話した	6 男女共同参画センターや市が行う講座に参加した
3 友人どうしで話した	7 その他 ()
4 学校で話したり学習したりした	8 話し合ったり学習したりしたことはない

【男女の役割分担について】

問 4.「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つだけ)

1 そう思う	3 どちらともいえない
2 そう思わない	4 わからない

※次の**問 5.**は結婚（未入籍だがパートナーと暮らしている場合も含む）し、同居している方のみお答えください。それ以外の方は次ページの**問 6.**にお進みください。

問 5.あなたの家では、次に挙げる仕事等は、主にどなたがしていますか。または、過去にしていたか。(○は各項目1つずつ)

項 目	主に夫	主に妻	夫婦同程度	その他の人(男性)	その他の人(女性)	該当しない
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	6
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
(ウ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6
(エ) 掃除	1	2	3	4	5	6
(オ) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(カ) ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	1	2	3	4	5	6
(ク) 役所や銀行などへの用事	1	2	3	4	5	6
(ケ) 高齢者や病人の世話	1	2	3	4	5	6
(コ) 町内会や自治会の出席	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6
(シ) 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
(ス) 家計の管理	1	2	3	4	5	6
(セ) 財産・資産の管理	1	2	3	4	5	6
(ソ) 家庭内での主導権	1	2	3	4	5	6

問 5-1.問 5.の項目 (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち自分が「もっと分担してもよい」と思うものを3つまで選んでください。

記入欄			
-----	--	--	--

問 5-2.問 5.の項目 (ア) ~ (ソ) までの仕事のうち配偶者・パートナーに「もっと分担してほしい」と思うものを3つまで選んでください。

記入欄			
-----	--	--	--

【子育てと教育について】

問 6.これからの時代を生きていく子どもたちには、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。(〇は女の子・男の子それぞれ3つまで)

項 目	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	1	1
(イ) 経済的に豊かな生活をする	2	2
(ウ) 社会に貢献する	3	3
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	4	4
(オ) 人間性豊かな生活をする	5	5
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	6	6
(キ) 本人の意思に任せる	7	7
(ク) その他 ()	8	8

問 7.学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、何が大切だと思いますか。(〇は3つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1 男女平等の視点に立って、性別にとらわれず、一人ひとりの個性を育むような授業をする 2 生活指導や進路指導において、男女の区別をなくす配慮をする 3 男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う 4 相手へのいたわりや理解が増すような性教育を充実させる 5 性差別や人種差別などに問題意識をもたせる 6 国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる 7 今のままでよい 8 わからない 9 その他 ()
--

問 8.女性が一生の間に産む子どもの数は2012年で1.41人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思いますか。(〇は3つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1 子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない 2 住宅事情や家計が厳しく、子育てに経費がかかりすぎる 3 結婚しない人やしたくてもできない人が増えた 4 子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた 5 女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した 6 出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きい 7 子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた 8 子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた 9 祖父母や隣近所など、保護者以外に子育てを支援してくれる人がいない 10 その他 ()
--

【高齢化社会について】

※次の問 9.は介護が必要な在宅の身内の方（要介護者）がいる方のみお答えください。
それ以外の方は問 10.にお進みください。

問 9.主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------|----------|------------------|
| 1 配偶者 | 4 娘 | 7 地域の人・ボランティア |
| 2 息子 | 5 娘の夫 | 8 訪問介護員（ホームヘルパー） |
| 3 息子の妻 | 6 その他の親族 | 9 その他（ ） |

問 10.家庭で寝たきりになったお年寄りなどの介護は、女性（妻・嫁・娘など）が主たる担い手となることが多いですが、このことについてどう思いますか。（○は1つだけ）

- | |
|--|
| 1 女性の役割として当然だと思う |
| 2 問題があるが、現実にはやむを得ない |
| 3 介護保険制度・訪問介護員（ホームヘルパー）を活用するなど、女性の負担を軽減するほうが良い |
| 4 その他（ ） |
| 5 わからない |

問 11.あなたは、自分が万一、介護が必要になったとき、誰に介護してほしいですか。
（○は2つまで）

- | | | |
|--------|----------|------------------|
| 1 配偶者 | 4 娘 | 7 地域の人・ボランティア |
| 2 息子 | 5 娘の夫 | 8 訪問介護員（ホームヘルパー） |
| 3 息子の妻 | 6 その他の親族 | 9 その他（ ） |

問 12.現在、男性が介護や育児に関わる時間が少ない状況にあります。その理由は何だと思えますか。（○は2つまで）

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 男性の仕事が忙しいから | 5 仕事を休むことにより経済的な損失が大きいから |
| 2 休暇が取りにくいから | 6 介護・育児に自信がないから |
| 3 今までの慣習や風習があるから | 7 介護・育児に対する男性の意識が低いから |
| 4 昇進等に影響があると思うから | 8 その他（ ） |

【労働について】

※次の問 13.は働いている方のみお答えください。働いていない方は問 14.にお進みください。

問 13.あなたの職場では、男性職員・女性職員それぞれについて有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。(○は各項目1つずつ)

項 目		取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらとも いえない
男性職員	(ア)有給休暇	1	2	3	4	5
	(イ)育児休業	1	2	3	4	5
	(ウ)介護休業	1	2	3	4	5
女性職員	(ア)有給休暇	1	2	3	4	5
	(イ)育児休業	1	2	3	4	5
	(ウ)介護休業	1	2	3	4	5

問 14.女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。(○は1つだけ)

- 1 結婚や出産に関わらず、育児休業制度等を利用してずっと職業を持つ
- 2 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事に就かない
- 5 子どもができるまで仕事を持ち、その後は仕事に就かない
- 6 仕事を持たない
- 7 その他 ()

問 15.あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 結婚・育児・介護のために退職した職員の再雇用制度の促進
- 2 保育所や放課後児童クラブ（学童保育）の充実
- 3 保育時間の延長、病児保育など保育サービスの充実
- 4 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実
- 5 代替職員の確保など育児・介護休業制度を利用しやすい職場づくり
- 6 パートタイマーなど非正規雇用者の待遇改善
- 7 残業を減らすなど年間労働時間の短縮
- 8 男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進
- 9 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
- 10 その他 ()

【セクシュアル・ハラスメントについて】

※セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)とは、相手の意に反した性的な性質の言動のことを言います。

問 16. これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。
(○は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

項 目	職場	学校	地域	経験 なし
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	1	2	3	4
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	1	2	3	4
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	1	2	3	4
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	1	2	3	4
(オ) 交際を強要された	1	2	3	4
(カ) 性的な行為を強要された	1	2	3	4
(キ) 性的な噂をたてられた	1	2	3	4
(ク) 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1	2	3	4
(ケ) 容姿について繰り返し言われた	1	2	3	4
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	1	2	3	4
(サ) 性的な内容のメールや手紙、電話を受けた	1	2	3	4
(シ) ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに張られた・見せられた	1	2	3	4
(ス) その他 ()	1	2	3	4

問 17. あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。(○は1つだけ)

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

問 18. セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思えますか。(○は各項目1つずつ)

項 目	そう思う	そうは 思わない
(ア) 相手を対等な人間として見ていないから	1	2
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	1	2
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	1	2
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	1	2
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	1	2
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	1	2
(キ) その他 ()		
(ク) 分からない		

【ドメスティック・バイオレンス(DV)について】

※ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、夫婦(別居・離婚後も含む)や親子、きょうだい間の暴力など家庭内の様々な形態の暴力と考えられますが、最近では「配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力」のことを言います。

問 19.今までに、夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーから次のようなことを受けたことがありますか (○は各項目 1 つずつ)

項 目	何度もあった	1、2回あった	まったくない
(ア) 大声でどなりつける、物を投げる	1	2	3
(イ) 暴言を吐かれるなど、精神的暴力を受ける	1	2	3
(ウ) 交友関係や電話・メール、外出などを細かく監視する	1	2	3
(エ) 何を言っても無視する	1	2	3
(オ) たたく、突き飛ばすなどの行為を繰り返し行う	1	2	3
(カ) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける	1	2	3
(キ) 生活費を渡さない	1	2	3
(ク) 性的な行為を強要する、避妊に協力しない	1	2	3
(ケ) その他 ()	1	2	3

※次の問 19-1.~19-3.は、問 19.の (ア) ~ (ケ) のいずれか 1 つ以上で **1 または 2** と答えた方のみお答えください。

それ以外の方は次ページの問 20.にお進みください。

問 19-1.これまでに、問 19.で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つだけ)

1 相談した	2 相談したかったが、しなかった	} 次ページの 問 19-3.へ
	3 相談しようとは思わなかった	

問 19-2.実際に、誰に (どこに) 相談しましたか。(○は当てはまるものすべて)

1 親族	5 役所の相談窓口、女性サポートセンター等
2 友人・知人	6 医師・カウンセラー等
3 同じような経験をした人	7 NPO、市民団体等
4 家庭裁判所・弁護士・警察等	8 その他 ()

問 19-3.誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○は当てはまるものすべて）

- 1 誰に（どこに）相談してよいかわからなかった
- 2 相談する人がいなかった
- 3 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 4 相談しても無駄だと思った
- 5 相談したことが分かる、と、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
- 6 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った
- 7 他人を巻き込みたくなかった
- 8 子どもに危害が及ぶと思った
- 9 自分にも悪いところがあると思った
- 10 相談するほどのことではないと思った
- 11 その他（）

問 20.夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーからの暴力について、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか(○は2つまで)

- 1 警察による対応の充実
- 2 一時避難所（シェルター）の確保
- 3 相談体制の連携充実
- 4 相談機関等の周知・紹介
- 5 配偶者暴力相談支援センターの整備
- 6 被害者の自立のための就業支援や情報提供
- 7 加害者の意識啓発
- 8 その他（）
- 9 わからない

【社会・地域参加について】

問 21.次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。(○は当てはまるものすべて)

項目	現在参加しているもの	今後参加したいもの
1 スポーツ・サークル活動	1	2
2 ボランティア活動、福祉活動	1	2
3 文化、教養、学習活動	1	2
4 自治会、婦人会、長寿クラブ	1	2
5 子ども会活動	1	2
6 防犯・防災活動	1	2
7 消費者運動・住民運動	1	2
8 PTA の役員、学校等の保護者会	1	2
9 市が行う講座・講演会等への参加	1	2
10 市の <u>審議会</u> 等の委員 ※	1	2
11 その他 ()	1	2

※審議会…学識経験者や専門家などが政策に関する提言を行う、市の付属機関のこと

問 22.これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われていています。地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が重要だと思いますか。(○は2つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1 地域活動や家庭生活への参加を促進するための啓発活動をする 2 地域活動に関する情報提供を促進する 3 労働時間を短くして余暇を増やす 4 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する 5 企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する 6 その他 () 7 わからない
--

問 23.自治会や PTA などの活動では、会長や副会長などのリーダーに女性が少ない傾向にあります
が、その原因は何だと思えますか。(○は2つまで)

- 1 責任ある地位に就きたくないと考えている女性が多い
- 2 家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多い
- 3 組織活動の経験が少ない女性が多い
- 4 指導力のある女性が少ない
- 5 女性がリーダーでは、女性がついてこない
- 6 女性がリーダーでは、男性がついてこない
- 7 女性がリーダーでは軽く見られる
- 8 男性がリーダーとなるのが社会慣行である
- 9 その他 ()
- 10 わからない

問 24.茂原市では、審議会等の女性委員の登用率を 30%まで引き上げるという数値目標を設定して
いますが、平成 25 年度は 18.8%となっています。このことについてあなたはどう思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 現状でよい | 5 性別にこだわる必要はない |
| 2 女性がもう少し増えたほうがよい | 6 その他 |
| 3 男女半々ぐらいまで増えたほうがよい | 7 わからない |
| 4 女性のほうが多い審議会があってもよい | |

問 25.女性の社会参加を進め、男女があらゆる分野で平等な立場で協力しあっていくためには、どん
なことが必要だと思えますか。(○は2つまで)

- 1 女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める
- 2 女性が経済的に自立する
- 3 職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参加する
- 4 男性の理解と協力を得る
- 5 男女とも、社会の一員としての自覚と責任を持つ
- 6 子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする
- 7 家事・育児が社会的に十分評価される
- 8 男女平等のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する
- 9 その他 ()
- 10 特にない
- 11 わからない

【防災・災害復興対策について】

問 26.あなたは、防災・災害復興対策に、女性の視点に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 必要がある | 4 必要ない |
| 2 どちらかといえば必要がある | 5 どちらかといえば必要ない |
| 3 わからない | |

問 27.防災・災害復興対策で、女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 避難所の設置・運営体制 | 6 地域防災計画の策定 |
| 2 被災者に対する相談受付体制 | 7 その他 () |
| 3 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制 | 8 特にない |
| 4 救援医療体制 | 9 わからない |
| 5 災害時の正確・迅速な情報連絡体制 | |

【市への要望について】

問 28.男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか (○は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進 |
| 2 男女平等、男女共同参画についての講座やイベントの開催 |
| 3 男女平等に関する情報提供や意識啓発 |
| 4 女性に対する暴力の防止対策の充実 |
| 5 職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善 |
| 6 育児・介護休業制度の普及促進 |
| 7 職業訓練、職業相談の充実 |
| 8 保育園・学童保育などの保育事業の充実 |
| 9 高齢者・障害者の介護制度の充実 |
| 10 地域活動やボランティア活動の促進 |
| 11 各種団体の女性リーダーの養成 |
| 12 市の審議会委員や民間企業などの管理職への女性の登用促進 |
| 13 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置 |
| 14 男女共同参画推進センター・男女共同参画に関する拠点施設の設置、整備 |
| 15 男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置 |
| 16 男女共同参画推進条例の制定 |
| 17 その他 () |
| 18 特にない |
| 19 わからない |

5 用語解説

【あ行】

■アンペイド・ワーク（あんぺいど・わあく）

家事や育児、介護、看護などの仕事や地域活動など、無償だが我々の生活に必要な労働。語源は「unpaid work」（無報酬の労働）。

■エンパワーメント（えんぱわめんと）

個人や集団が自らの生活への統御感を獲得し、組織的、社会的、構造に外郭的な影響を与えるようになること。語源は「empowerment」（権限を与えること、能力・実力をつけること）。国連開発計画が導入した概念で、「女性の政治参加や経済における活躍、意思決定に参加できるかどうかを表す指数」として、「ジェンダー・エンパワーメント指数」（GEM=Gender Empowerment Measure）がある。

【さ行】

■ジェンダー（じえんだあ）

先天的・身体的・生物学的性別を示すセックス（sex）に対する、「社会的・文化的な性のありよう」のこと。語源である「gender」は、英語圏で生物学的な性も社会的な性も指す単語として用いられるが、1950年代に一部の社会科学の分野において「gender」が社会的な性のありようを意味する言葉として用いられるようになった。

■女子差別撤廃条約（じょしさをつてっばいじょうやく）

1979年（昭和54年）12月18日に国連で採択された多国間条約で、正式名称は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」（Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women）。1981年（昭和56年）に発効し、日本は1985年6月25日に批准した。あらゆる分野における性差別を撤廃するために必要な措置を定めており、既存の法律、慣習等を修正または廃止することなどが定められている。

【た行】

■男女共同参画社会基本法（だんじょきょうどうさんかくきほんほう）

男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指して1999年（平成11年）に制定された法律。その2条において、「男女共同参画社会の形成」を「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定義している。

■男女雇用機会均等法（だんじょこようきかいきんとうほう）

雇用の分野で男女の均等な機会や待遇の確保等を目的とする法律で、正式名称は「雇用の分野における男女の均等な機会および待遇の確保等に関する法律」。募集・採用から定年・退職・解雇に至るまでのすべての段階における女性の差別が禁止されている。

■男女ハートフル共生プラン～茂原市男女共同参画計画～（だんじょはあとふるきょうせいぷらん～もばらしだんじょきょうどうさんかくけいかく～）

平成23年3月に策定された茂原市における男女共同参画計画（第二次）の名称。女性と男性が、互いを理解し協力し合うこと（共生と共創）」を基本理念に、66の項目が盛り込まれている。公募により決定された「ハートフル」という名称が表しているとおり、優しさにあふれ、男女がそれぞれの特性を活かしながら充実した人生を送れる社会を目指して、市民の皆様と協働して計画を推進している。

■DV（でいびい／どめすていっく・ばいおれんす）

夫婦や恋人などの親密な関係にある人からふるわれる暴力。「ドメスティック（domestic）」は本来「家庭の」という意味であるが、近年ではドメスティック・バイオレンス（DV）は同居の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す場合もあり、高校生や大学生など婚姻関係にない若年者の中での身体・言葉・態度による暴力が特に「デートDV」と呼ばれ、社会問題になっている。

【は行】

■ポジティブ・アクション（ぽじていびい・あくしょん）

男女が対等な構成員として自らの意思によって社会における活動に参画するとき、男女間の格差を改善するために男女のどちらかに機会を積極的に提供すること。「Affirmative Action」（肯定的措置）と「Positive Discrimination」（肯定的差別）を融合した和製英語。アメリカでは女性に限らず、黒人や少数民族など一般的に社会的不利益を受けている少数派に対してもこのような措置が行われている。

【わ行】

■ワーク・ライフ・バランス（わあく・らいふ・ばらんす）

国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。平成19年12月に政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、現在、様々な取り組みが進められている。

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査 アンケート結果

平成26年3月

発行
調査・編集

茂原市
茂原市企画財政部企画政策課
千葉県茂原市道表1番地
電話 0475(20)1516
FAX 0475(20)1603
E-mail kikaku@city.mobara.chiba.jp